

専門部会での委員意見、関係団体等ヒアリング及び市民意見のまとめ
(平成21年12月24日現在)

(○=審議会委員意見、◇=関係団体ヒアリング、□=その他ヒアリング、△=市民意見、を示す。)

(1) 「くらし」分野

<p>福祉 (高齢者、障害者等) (審議資料：ともにささえあう社会をめざす)</p>	<p>(全般) ○高齢者の中にも、支援を必要とする人とそうでない人、支援を必要とする人たちの中にも、チャレンジしている高齢者もいる。その辺りの差をきちんと分けて考えていく必要がある。 ○「高齢者・障害者」と、ひとくくりの形で書かれている。似通ったサポートをする部分もあると思うが、本当は少し違った視点からの整理が必要であると思う。 ○がんのターミナル(グループホーム)・難病についてはどのように考えていくのか。 ◇雲の上の話にならないよう、ふれまち協や婦人会等を通じ、ともに支えあうことの大切さを市民の末端まで根付かせてほしい。 ◇障害者に対する区職員の理解を深めてほしい。 ◇行政の責任を市民に押し付けず、きっちり書くべきである。まず「公助」があって、その後「自助、共助」が来るべき。 ◇市営住宅の高齢化や、貧困・格差の問題が、深刻になってくる。 ◇基本計画で言う「障害者」には、身体・知的・精神障害者だけでなく、発達障害も含まれることを明記してほしい。 ◇すべての施策を通じて、市職員に障害者への理解を深めてほしい。 ◇支えられる側の比率がどんどん高くなる中、公共がどこまで支えられるか、考え方の整理の必要性を感じる。 ◇高齢者施策、障害者施策など複合的な課題への対応が必要なケースが増えてきている。 ◇刑期を終えて出所した「刑余者」を社会で受け入れることが必要。 △何より優先すべきは、将来のくらしに対する「不安」を払拭することだ。 △人と人とのつながりはとても大切だと思うが、自分自身の暮らしが不安定だと他人まで大切に思う余裕は持てない。まず市民1人1人が安心できる生活を送れることが最優先の目標。 △すべての人(老若男女)が自助自立の心を常に養う、すべてはここからはじまる。助け求めすぎない。自分で生きる知恵の工夫努力を求める。 △長い目で見て福祉・医療が一番の心配事になると思う。 △福祉や医療がどうして増えているのか、根本的な原因を追求していかない限り、ますます生活すべてを福祉に頼る人が増え続ける。神戸市は福祉が充実しすぎていると他市の方から聞く。</p> <p>(1) 生活支援 ○広域行政や大都市制度の推進により、地域内での貧富の差、格差がますます出てくるのではないか。地域内の格差の問題についても、考えておく必要がある。 ◇福祉関係の職場の求人難は非常に深刻。 ◇シルバー産業は、日本にとって今後振興が必要な内需型産業の典型であり、雇用吸収力も大きい。シルバー産業をビジネスとして活性化するための方向性を示してほしい。 ◇福祉サービスが十分に整えば、高齢者の消費も喚起できる。 ◇元気な高齢者向けの施策は、あまり利用者が伸びず、効果が小さいのではないか。 ◇介護分野の人材離れは深刻。市として、若者の就職先としての介護現場のイメージ向上に助力してほしい。</p>
--	--

- ◇各区の障害者地域生活支援センターや主要病院に手話通訳をお願いしてほしい。また、手話通訳や要約筆記者が高齢化しており、人材育成に力を入れてほしい。
- ◇民生委員にもっと聴覚障害者への理解を深めてほしい。
- ◇全市1か所でのよいので、聴覚障害者用の障害者地域生活支援センターがほしい。
- ◇難聴者同士、ろうあ者同士でもコミュニケーションできるための環境づくりが必要だ。
- ◇発達障害の支援の一環として、ソーシャルスキルトレーニングやペアレントメンターなど、資格を持っている人のさらなる有効活用も考えてほしい。
- ◇成年の発達障害者がどんなことでも気軽に相談できる窓口が欲しい。
- ◇権利擁護の制度を、発達障害者にも使い勝手がよいものにしてほしい。
- ◇介護保険の制度をもっと高齢者向けにPRしてほしい。
- ◇いくら制度をPRしても、自分に関係ないと思う人には届かないので、広報の充実は難しい。
- ◇介護人材は対人能力など専門的スキルが必要で、たやすく養成できるものではない。
- △少子・超高齢社会が進み、各個人の生活の格差が発生することは以前から予想され、若い人は自分の将来のことをもう少し真剣に考えて行動すべき。
- △このような生活ができるようにまず行政が行動で示してほしい。教育、失業、医療等各々に対するセーフティネットの整備がスタートラインだと思う。
- △身体的精神的弱者が通常の人達に比して苦しい思いをせずに生きてゆける仕組みを行政の手でつくりあげて欲しい。

(2) 地域支援

- 神戸の女性就業率が低い理由が仮に個人的な介護のためだとすれば、介護施設サービスや他の親も地域で看るなど、「介護」の社会化、社会的企業による解決を図ればどうか。
- 将来的には、行政の足らずを補う形で任意団体やNPOがささえあうという形が本来であることは分かるが、今の神戸が果たしてそういう状況になっているのかについては、少し自信がない。
- ソーシャルエクスクルージョンの問題は、職や行き場がなくて引きこもってしまうという形であられることもある。行政だけでなく専門職や事業者、市民グループなどの取り組みが重要。
- 心の問題の記述が薄く感じる。高齢化が進み、引きこもり予防の必要性が高まるが、具体策が乏しい。
- 自殺者の数は全国で3万人以上で、交通事故による死亡者数を上回っている。地域コミュニティということも含めて、メンタルヘルスは非常に大切だと思う。
- 障害者が地域の方々に慣れてなれてもらうことが大切。施設という限られた世界だけでなく、地域で育ち、守られ、できないところを支援されながら暮らすという形に持って行っていただきたい。
- ◇地域コミュニティが貧困問題に対応するのは現実には難しい。
- ◇地域の中で、障害に関する正しい理解を広める努力が重要。啓発は既にできていることを前提に、地域の具体的な取り組みの中で障害への理解を深めていくべき。
- ◇災害時要援護者としての個人情報や民生委員などに渡すことには不安を感じる。
- ◇平素から周囲の人たちに、この子は障害があるんだと言う事を知っておいてもらうことの安心感は大きい。一方的、機械的に情報をまくのではなく、障害者や家族が自分の意思で、知っておいてほしい人に情報を渡すのがよいのではないか。
- ◇障害者同士が助け合う避難訓練は非常に有効な試みと思う。
- ◇地域自立支援協議会の防災部会などの働きかけで、民生委員や自治会、婦人会等が横につながるしくみができて、障害に関する情報交換ができればと思う。
- ◇「移動支援」ということを、ぜひ基本計画の中でも考えてほしい。
- ◇教育を通じて障害者への理解を深めてほしい。
- ◇コミュニティフレンドなど、知的障害者の見守りのしくみを考えてほしい。
- ◇障害者や認知症に関する理解は、たとえば小中学校の空き教室でデイサービスを行うな

	<p>ど、小さい頃からの教育で深めていくべき。</p> <p>◇トライやるウィークで実際に車いす補助や食事介護等を体験してはどうか。</p> <p>◇発達障害児の親同士が相談しあって孤立を防ぐ場が必要。</p> <p>◇一斉に同じ時期に入居したニュータウンでは、高齢化も一斉に始まっている。</p> <p>◇市としてボランティアを登録し、必要な地域に派遣してはどうか。</p> <p>◇老健施設は、日曜日など空いている時には、どんどん地域の活動拠点として使ってもらいたい。</p> <p>◇コミュニティができることには地域差がある。行政主導でコミュニティ再生は難しいだろうが、どこまでバックアップ可能か考える必要がある。</p> <p>◇コミュニティでの役割をもっと高齢男性に担ってもらうしかけが必要。</p> <p>◇独居の人も声がかけあったり、若い人が高齢者の家にホームステイするようなしくみが有効ではないか。</p> <p>◇コミュニティが衰退する中、ふれあいの場を意識的につくっていく必要がある。</p> <p>◇地域包括支援センターや区社協が、地域団体をうまくコーディネートして、地域に視点を置いたネットワークや声かけのしくみをつくってほしい。</p> <p>△社会から孤立している人は人との会話すらできず、病気になっても医者にかかろうとしない。そんな人をどのように救うかは難しい問題だが、解決しなければいけない。</p> <p>△男女とも単身者が多くなり、自然に「孤独」と隣り合わせの生活が待っている。その人々にまだまだ有意義に過ごしていただくための「サロン」が必要。</p> <p>△自閉症の娘を今まで同様、地域で安心して育てられる環境であることを願う。親として年齢を重ねる度に不安。いつまでも皆さんとこの街で生活が送れるように。</p> <p>(3) 就労支援</p> <p>○周囲から必要とされることが尊厳の第一歩である。すべての人の中に人をささえる力があるという部分に触れていただきたい。</p> <p>○ICT の活用は、障害者も高齢者も子どもも主体的に参画してお互いの助け合いの発信ができるものであり、すべてのベースに使えるものだと思う。</p> <p>◇障害の重い人に就労を迫ることはできない。「施設」か「就労・自立」かの二者択一ではなく、その両者の融合した領域が必要だ。</p> <p>◇福祉的就労の工賃倍増のため、地域活動支援センターの充実や市からの発注増などに力を入れてほしい。</p> <p>◇発達障害者に対する就労前研修や就労後フォロー、市役所でのアルバイトによる職業訓練などをお願いしたい。</p> <p>△社会から孤立する人を防ぐため、働ける仕事を増やして欲しい（若い人から老人まで）。賃金は安くてもいい、簡単な仕事でいい。</p>
<p>住まい （審議資料：快適な住環境の形成）</p>	<p>(1) 安全で安心な「ひとにやさしい住宅」の確保</p> <p>○京都府では、建築士会が中古住宅の性能評価をする準備を進めており、民間主導で中古住宅市場が成り立つように取り組んでいる。是非入れてほしい。</p> <p>△高齢者の所有住宅の時代に即応したリニューアル（太陽光、省エネ、バリアフリー住宅の改良）費の融資（地域）制度の確立、モーゲージ。</p> <p>(2) 低炭素社会に対応した「環境にやさしい住宅」の確保</p> <p>△国際都市神戸の魅力を今一度とり戻して欲しい。クリーン・エネルギーの都市として太陽光発電装置の一般家庭への設置を推進するのが近道と思われる。</p> <p>(3) 大切にすまう・ともにすまう意識の向上</p> <p>○「住環境」としての捉え方が弱いのでは。防災やみどりなども総合的に組み合わせられて個々の住環境があるので、項目の中に記載している方がよいのではないか。</p>

	<p>(4) すまい手のニーズにあったしくみの整備</p> <p>○人口密度が下がってきた場合、戸建てが増えるイメージがあるが、逆に、そこに新しい集住のシステムが入ってこないと助け合いのしようがないのでは。</p> <p>◇急速に高齢化が進む市営住宅に、若い世代の入居が進む工夫がほしい。</p> <p>◇市営住宅を建てる際に、1階に身体障害者、2階に知的障害者というような配慮はできないか。</p> <p>◇「施設」と「在宅」の中間的な、ある程度ケアのある集合住宅があって、高齢者が簡単に住み替えられたらと思う。公営住宅の1階空き部屋に上層階の高齢者が引っ越せるだけでも有効。</p> <p>△元気な人にシルバー向けの1人住まいや夫婦住まいの小さくて快適な年金で住めるような住宅を作ってほしい。</p> <p>△2世帯住宅に力を入れ、孫たちを年寄りがみてあげる。保育園よりお互いにとっていいと思う。</p>
<p>健康・医療 (審議資料：安心なくらしをささえる)</p>	<p>(1) 健康づくりの環境整備</p> <p>△簡単な体操やウォーキングで健康になり、転倒など日常の事故を防ぐこともできる。公共施設を利用して運動に参加すれば、保険料が還元される等のメリットを与えては。</p> <p>(2) 医療体制の充実</p> <p>○神戸の救急医療の充実度は下がってきている。特に小児救急に関して穴が空いている。24時間の救急医療体制は既に崩れつつある。</p> <p>○少子化が進む中、子どもは国の宝であり、小児医療の体制の充実をしっかりと進めていかなければならない。</p> <p>○中央市民病院は2年後には移転して、病床数が740床から700床に減る。本当にダウンサイズした700床で足りるのか、柔軟に考えてほしい。</p> <p>◇高齢化の中、歯科は最も重要な健康づくりの拠点であり、人生のすべての段階で重要な役割を果たしている。</p> <p>◇歯科が担う予防医療による医療費抑制を神戸市もめざしてほしい。</p> <p>◇歯科の休日診療をどう確保するかは大きな問題である。</p> <p>◇医薬分業もあり、薬剤師や薬局が、まちの安心を守るために果たす役割は大きくなっていく。</p> <p>◇営利企業の医療分野への進出で、地域の安心を守る薬局が脅かされるのが懸念される。</p> <p>◇医療通訳や健康保険証・ポスターの外国語表記などを進めてほしい。</p> <p>◇中央市民病院の移転方針に疑問。一般市民のすべてが高度専門医療を必要とするわけではない。障害者には個室が必要なケースも多く負担が大きい。</p> <p>◇日本人の死生観にも関わるが、終末期の医療をどうするかという問題がある。</p> <p>△夜間に子供の急病の場合、受け入れてくれる病院がもっとほしい。中央市民病院に負担が集まりすぎて同情する。救急体制にもっとお金をかけるべき。</p> <p>△独立法人になったのかもしれないが、市民HPは市民のための病院であってほしい。どんどん遠くなっている。(場所も診察も)。</p> <p>△神戸市内の医療レベルが低すぎる。もう少しレベルの高い医者を公立の病院に。県外にまで行って難病の治療をしている。病名不明で病院20ヶ所以上たらいまわしにされた。</p> <p>(3) 安全・安心の確保</p> <p>○インフルエンザ予防にあたっては、教育委員会との関係が大事だと思う。</p> <p>○メンタルヘルスは非常に大切と思う。</p> <p>△インフルエンザなどの非常事態にすばやい対応が必要。その他の危機にも対応できる組織・設備を整えておくべき。</p> <p>(4) 元気に暮らせるまちづくり</p> <p>○心の健康が抜けている。市内には仕事を持たない20歳代の若者が7,000人いて、我々</p>

	<p>も彼らの相談に乗ったり仕事を紹介したりしているが、その多くはメンタルの問題を抱えている。</p> <p>○心の問題の記述が薄く感じる。高齢化が進み、引きこもり予防の必要性が高まるが、具体策が乏しい。</p> <p>○自殺者の数は全国で3万人以上で、交通事故による死亡者数を上回っているぐらいで、メンタルヘルスは大切だ。地域コミュニティということも含めて、メンタルヘルスは非常に大切だ。</p> <p>△ボランティアだけでなく、60歳を越えた人を積極的に雇うなど、高齢者が生き生きとした生活を送るようにしてほしい。</p>
<p>消費生活 (審議資料：安心できる消費生活を実現する)</p>	<p>(1) 安全・安心をはじめとする消費者利益の確保</p> <p>○検査体制など科学的な部分について、神戸はゼロに近い。「消費者庁」が立ち上がった今が、神戸が安全・安心の基地になるチャンスである。</p> <p>○市が国と連携して食品やくらしの安全・安心を構築していくようなシステムが必要。</p> <p>○衣食住すべての生活に関わる様々な消費対象物を対象にするというニュアンスにすべきで、特に、一番大きな財産である「住宅」も含めることが必要。</p> <p>△税収の伸びが期待できない理由の1つに、地震で神戸を離れた人が地方に行き、神戸が全ての面で物価が高いということを実感したことがあると思う。</p> <p>(2) 相談体制の充実</p> <p>(3) 消費者の自立支援</p> <p>○消費者教育を小中高の間にいずれかにおいてしっかりと実施していただきたい。</p>
<p>雇用 (審議資料：働く場の確保と人材の育成)</p>	<p>(1) 市民生活を支える基盤である安定した雇用の場を確保</p> <p>○製品の価格競争が激しくなってすべて受注できるとは限らない。社員の半分以上は非正規に頼らざるを得ない。社会の仕組みが変わってきたことが事実としてある。</p> <p>○社会増のためには労働力流入が必要。神戸の強みをいかした産業を育てていくといった、政策へつなげていく合理的な議論が必要。</p> <p>○企業は経営上、コストを抑えようとするから、派遣制度がある以上は利用するのはしかたがないが、同じ仕事であれば同じ賃金、報酬を支払う必要がある。</p> <p>○企業を集積するにはよりきめ細かい企業サポートが必要。その際、大企業のみならず中堅企業、外資系企業のサポート体制の充実も必要。</p> <p>○医療や介護分野は、労働集約的であり、医師や看護師、介護士といった専門性の高い領域から清掃、給食配膳など一般的な領域と裾野が広く、幅広い雇用の場が生まれる。</p> <p>○中京地域の強い産業を調査したことがあるが、東京を見ないで世界を見ている企業がしっかりしている印象がある。スパコン、医療産業は、イノベーションの核をおいているだけでなく、研究とつながる産業の方向性を確立し、高い給料が払える企業をどれだけ誘致できるか考えていただきたい。</p> <p>○製造業はグローバル社会の中で一層過酷な競争にさらされ、労働力は景気循環に左右される。介護・医療など3次産業に力を入れない限り雇用の吸収は困難。神戸には処遇の良い企業や雇用を発生させる産業がないと長期的に難しい。他都市で医療・介護などの産業施策を打ち出せば、そちらにとられてしまうので、早めに強化すべき。</p> <p>◇今の若い人は、生きがいをもって働くことが保障されていない。</p> <p>◇失業を経験した人が仕事を紹介する取り組みなど、社会的企業が雇用の面で果たせる役割があるのではないか。</p> <p>◇神戸に外国人の働ける仕事がないが、東京には多くある。外国人の若者、ブラジルやベトナム人などが働ける場、教育を活かす職場が必要。10年後に向けて是非取り組んで欲しい。</p> <p>△終身雇用・年功序列を大切にしたい社会づくり。家庭の安定、心の安定からまちづくりを。</p> <p>△神戸の西部からは大阪へは勤めにくい。転職先を探しており、垂水から通いたいと思っ</p>

	<p>ているが大阪ばかり。雇用を増やすことが前提。</p> <p>△人や社会に支えられる前に、自分でしっかり自分を支えるよう努力することを基本とするべき。そのためには生活保護者や失職者に公共作業関連の雇用機会を与えるべし。</p> <p>△神戸で生まれ育った若者が神戸で地に足をつけて働いていける場があれば望ましい。神戸で仕事したら神戸がもっともっとよくなる。</p> <p>△震災の時もそうだったが、公共事業工事に他県の会社を使わず地元中小企業又は仕事にあぶれている職人を雇い入れるべきだ。</p> <p>△ニートや派遣のような不安定な仕事では結婚にふみきれない方々がたくさんいると思う。働き盛りの人達が定職につけるように。そうしないと、少子化は増すばかり。</p> <p>(2) 雇用のミスマッチへの対応</p> <p>○非正規雇用がすべて悪というわけではなく、終身雇用が維持できないこと、モビリティという流動性を高めつつ労働の場で気概を持って働けるような戦略をもっていくこと。</p> <p>○女性就業率が低く、一方で労働力不足であるなら、女性の労働力を活用したり、介護・看護支援ニーズに対する労働につなげる支援も考えるべき。</p> <p>○結婚退職後、ハローワークでパソコン講座を受けたが就業支援はなくアフターケアがなかった。働く場の紹介や就業に挑戦する若い人への支援があれば将来の仕事につながる。</p> <p>△能力があるのに仕事がない、そんなことにならないように、人の交流ができることと良いのだが。</p> <p>(3) ワーク・ライフ・バランス戦略</p> <p>○オランダのように社会構造を変えていけば、待機児童がどうこうという部分的な話ではなくなる。市内企業にそういう取り組みを働きかけるなど、違う観点があってもよい。</p> <p>○企業は昔から雇用確保のために対策を取っている。個別企業の取り組みのほか、制度として支援は必要と思うので多めに議論をして働きやすいシステムをつくることは大事。</p> <p>□雇用施策は労働の需要側と供給側に大きく分けられ、需要側としては、失業に対し雇用の場をいかに確保すべきかであり、供給側としては、情報の非対称を解消する雇用のマッチング、マッチングを円滑に進ませるための職業能力の向上、さらに、多様な形態の労働を存在させるためのワーク・ライフ・バランスがある。更に、2025年時点では、育児だけでなく、介護・看護も大きな問題となる。</p> <p>□別々にまとめられているが、社会的企業により、高齢者などが育児施設で働くなど社会的企業での就労の副次的効果として、働きやすさが向上するなどを考えた施策を実施すればどうか。</p> <p>△それぞれの力を発揮するため、例えばワークシェアリングのような、できる範囲で労働が進められる体制を整えてほしい。元気なりタイア世代が働け、納税できるしくみを。</p> <p>(4) 就業能力の向上</p> <p>○職業訓練も大事であるが、多様な人々に対応する職の多様性も大事であって、個性をいかした多様な働き方を提供するアプローチが必要。</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスは、労働の質とライフの質のバランスが重要である。働き甲斐とか、働く意味、生きる力といった人間教育の面がないと、本当の意味での就業意欲にはつながらない。</p> <p>○仕事を持たない20歳代の若者がいて、NPOとして彼らの相談に乗ったり、仕事を照会したりしているが、その多くはメンタルな問題を抱えている。</p> <p>△若者が働く場が少なく、その人の持つ、これから伸びてゆく能力を十分に発揮できるような社会にするため、熟練した技術を持つ50～60才代の人達の技能を伝承しやすい雇用の促進を。</p>
<p>子育て (審議資料：子育てを家族と</p>	<p>(全般)</p> <p>◇若年者の非正規雇用が少子化の大きな原因になっている。</p> <p>△若い人達の出会いの場所を作って安心して子育てができるような神戸になってほしい。</p>

<p>社会全体で支える)</p>	<p>△限られた財政の中、集中と選択をすすめる上で、若い世代を集中的に支援する政策を実行することで全世代への波及があると思う。</p> <p>△結婚しない、子供を産まない若者がふえている。「自分達だけ楽しく暮せたら良い、子供はいらない」という話を聞く。結婚しない、子供を産まない人の税金を多くしてほしい。</p> <p>(1) 母性並びに子どもの健康の確保と増進</p> <p>○小児医療の体制の充実をしっかりと進めていかなければならない。</p> <p>○子どもが苦手であるとか、将来が心配だとか、生き方として子どもが欲しくないという人が増えている</p> <p>○子どもについて学ぶ機会が失われ、子どもを産み育てる自信、“育児性”（子ども、子育てに対する肯定的な感情や意識）が持たなくなっている。</p> <p>○妊婦健診の自己負担について、せめて保険が適用できるようにしてほしい。</p> <p>○晩婚化により子どもが欲しくても持てない人もいる。10人に1人が高額の不妊治療を受けている。公的助成など、社会全体で理解を深めてほしい。</p> <p>◇シングルマザー支援などひとり親対策を進めないと、貧困家庭に育った子どもがハンディを負う悪循環になる。</p> <p>△今の若い女性の中には子供を産みたくてもお金がないのでためらっている人も多いのではないか。「1人産めば百万円」とアドバランを上げてみてはどうか。</p> <p>△不妊治療に対する助成金等が少なすぎる。体外受精の治療をしているが、保険適用外ばかりで助成金はあっても全く足りず、体とストレスでもう限界だ。</p> <p>(2) 地域における子育て支援の充実</p> <p>○子どもが健全に育つためには、行政も学校も大切だろうが、家庭が一番大切である。</p> <p>○子育て施策の多くは、ストレスの軽減にはなっても、親として子育てに関する満足、充実感を感じられないのではないか。</p> <p>○親同士が地域の中での関係性、絆を強め、地域の中で育てていくということが盛り込まれないと子育てはうまく機能しない。</p> <p>○小学校高学年から中学までぐらいで、親子や異性に関する踏み込んだ学習の場づくりが必要。</p> <p>○地域で子どもを育てるとするのは非常に難しい。保育所や幼稚園など各施設の受け入れ体制が必要。</p> <p>○子育ての施策体系は、厚生労働省と文部科学省の縦割りが強い。そのため、ネットワーク化や情報共有が難しい。</p> <p>○一番近くの児童館まで徒歩で30分かかると、制度があっても使いにくい。実際に子育て中の人の意見を聞くなどして、施策の改善を図ってほしい。</p> <p>○発達障害の子どもたちを社会の中で育てるためには、「子育て」に障害を持つ子どもたちも全部含めて考えていただきたい。</p> <p>○親が自分の子どもに障害があるということを受け入れるには時間がかかる。障害児支援だけでなく、子育て支援全体の中で育てていくという施策も必要だと思う。</p> <p>◇子育てしやすい環境づくりという点で「こべっこランド」は先駆的。</p> <p>△少子化の原因は経済面や保育所不足というより、受け入れる社会が未熟で、産みたくないというのが本音では。子どもを地域社会みんなの子どもなのだと思う気持ちが大切。</p> <p>△子供が公園で日中遊んでいて、近所の方から“うるさい”というクレームが学校等に入り、子どもが遊べないということがある。地域で子供を育てる広い心がなくなっているのでは。</p> <p>△さまざまな年代の人が交流できる場があるといい。子供も同学年ばかりでなく、上下の年齢の子、また地域の人とも交流できるとよい。安全面は昨今気になるが。</p> <p>△子育て支援に関して、すでに導入されている地域もあるが、自宅で近所の共働き夫婦の子ども預かるシステムをつくってほしい。</p> <p>△少子化が進むと心配されている中、神戸市は子供の医療費が0歳だけ無料なのか。兵庫</p>
------------------	---

県の他の市は3歳や3年まで無料の話聞く。育てやすい環境が必要。
△少子化問題を解決するためには、まず、子供を産むことができる経済状態にすることが必要。多くの子供を産む世代の人が貧困のため子供を産めない状況にある。神戸市独自の児童手当を。

(3) 仕事と子育ての両立支援

- 学童保育は過密、児童館で行う学童保育は満杯状態にあるなどの課題がある。
- 実質的な待機児童は、少なくとも今の倍以上いるのではないか。私の友人も、求職中ということだと保育所に申し込めないとされた。これでは女性が正社員として働くのは難しい。
- 神戸市内にひとり親家庭はどれくらいあるか、支援が必要な人に届いているかなど、毎日の生活に追われている人の意見や経験を聞く機会をつくってほしい。
- 両親で子育てできるような仕事の仕方は日本では難しい。オランダのように社会構造を変えていけば、待機児童がどうという部分的な話ではなくなる。
- 女性の社会進出や親の経済的な立場という視点は分かりやすいが、一方で子どもたちの育ちの部分から見た施策という議論も重要。
- 病児・病後児の部分が余り具体化できていないのではないか。
- 従来から企業は就業環境の整備を行っている。個別企業の取り組みのほか、制度として働きやすいシステムをつくることは大事。
- ◇育児の時期に女性が職業をいったん中断しなければいけないという状況自体を改めるべき。
- ◇保育所の問題は非常に切実。質・量ともに充実してほしい。
- △小学校が統合されるが、空教室などに保育所を作り、保育士は数人で、後は仕事を探している母親や地域のボランティアに運営していただくのもよいのではないか。
- △少子・超高齢化を解消するためにも、幼保介護一元化の施設を既存施設を利用してつくり、若いママには年寄りの知恵、年寄りには乳幼児の生命力で刺激を受けることが必須。

(4) 子どもの安全・安心の確保と生活環境の整備

△3歳児がいるため、「防犯ネット」に登録しているが、声かけ事件やひったくり等とても多いように感じる。この取組を強化してもらえれば、少しは安心して暮らせるようになるのでは。

(5) 要保護児童への対応

- 父子家庭への支援が抜けている。
- 新生児訪問指導事業が児童虐待防止の充実にもつながる。
- LDの子どもたちは、特別支援教育の中だけでなく、それ以外の周りの支えという比重が大きい。
- ◇教育現場は荒れており、着席やコミュニケーションができない子ども、対教師暴力なども多い。虐待を受けた子どもが暴力的になることもある。家庭をどのように社会全体でサポートするかが重要。
- △コミュニティの中での信頼関係が必要だが、母子家庭で低所得ともなると、近所づきあいの余裕もない。その結果、子どもが犠牲になるケースが増えている。まだまだ行政の力が必要。

<p>生涯学習・スポーツ (審議資料：生きがいのある暮らしをすすめる)</p>	<p>(1) スポーツの充実 ○神戸のプロ球団とスポーツの結びつきは余り強くない。「ささえる」というよりも、「参加する」というような位置づけに持っていければ、非常に有意義なものになるのではないかと。 ○「みるスポーツ」として、スポーツイベントを誘致するというのも重要。 ○神戸が誘致しようとしているフルマラソンは集客力がある。経済と結びつけ、イベント化していくことが必要。 ○生涯スポーツとなると種目や年齢層が限定され、競技スポーツ未満というくくりになってしまうが、広いジャンルで子どもと向き合え、スポーツにかかわる要素というのは非常に多い。 △高齢化が進んで行く中、寝たきりにならないために、要支援になる前に、高齢者の運動をカバーでき支える施設が各地域にできることが必要。</p> <p>(2) 生涯学習の推進 ○既存の生涯学習機関および民間や大学等との連携による、いくつになっても、いつでも学べる学習機会の提供。 ○市民の多様なニーズに応じた主体的な生涯学習への支援。 ○生涯学習で学んだ成果を地域社会に還元するためのカリキュラム開発や活動への参加機会が提供できるしくみづくり。 △自分の持つ特性を生かせる場がほしい。ただテレビをみたり、地域の福祉センターだけで楽しむだけでなく、それ以外の場所がある、こんなこともできると教えてくれるシステムがあるといい。</p> <p>(3) 市民の主体的な文化活動への支援 △芸術で都市の成熟度を更に上げる。国公立の芸術高校、大学、大学院を創設し、青少年から定年退職者等の熟年層も広く受け入れ、戦略としての芸術による経済振興まで考える。</p>
<p>教育 (審議資料：特色ある教育を推進する)</p>	<p>(全般) ○「教育の神戸」と言われるような打ち出し方をして、自分の子どもや孫を神戸で育てたいと思えるようなものに。 ○「神戸は社会全体で子どもの成長、発達を支える教育的社会をめざす」というトーンにしたい。 ○“神戸らしさ”ということから全国どこでも行われているような施策に甘んじてはいけない。たとえば、英語・日本語の力が育つとか、表現力の向上、防災意識と防災スキルなどの特性を打ち出すことで特色が出てくる。 ○「教育」を中心として、海外へ人材を輩出できることを神戸の特色にすべき。 ○障害児教育について、全く盛り込まれていない。 ◇家庭教育の変化の背景には、「都市化、情報化、核家族化」だけでなく「グローバル化」もある。 △若い世代の人達を育てて、新しい「知恵」と「力」とを育てて魅力ある社会を創造していったほしい。</p> <p>(1) 基礎基本の力と豊かな国際性を身につけた子どもの育成 ○「授業が分かる生徒の割合」が中学校では下がっている。「勉強を家でしない」子ども、不登校の生徒も中学校になると跳ね上がる。教育の現状は、厳しい部分があるのではないかと。 ○基礎基本の力とは何か。第1点目に「学力保障」であり、そのための学習指導の基準が「神戸スタンダード」であり、「神戸ミニマム」である。 ○新しい教育課程の「各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動」の5領域にシフトした施策を打つのがよい。</p>

- 子ども絡みの暴力事件、殺人事件なども多発する中、しつけのあり方を考えるべき。「武士道」などを通じ、社会規範を学ぶことも大切。
- 義務も含めて教育の中でしっかり語られないと、権利は非常に主張するがやるべきことをやらないという形の社会になりかねない。
- 「市民である」という意識を育てるため、小学生から職場のインターンシップや広報紙を活用した授業などを実施すれば、特色のある神戸方式となるのではないか。
- 「豊かな心」という見えない部分について、教員や親がしっかりした物差しを持てるかという課題がある。
- 教育の中で平等といって演劇の役で白雪姫が5人いるというのは奇異に感じる。主役だけでなく、支えるものがすごいんだと教えられる親であることが必要。
- 小学校の低学年までに、しつけや自分がされて嫌なことは人にはしない、努力したら報われるといった教育を家庭でしておくべき。
- 人権教育・啓発の推進について、具体的な内容が書かれていない。
- 道徳教育を小さい時から思春期までプログラムをしっかりと作って取り組んでほしい。正しい意識を持つように導けば、デートレイプや10代の妊娠などが防げるのではないか。
- 「心の豊かさ」についての切り込みがほしい。
- これからの教育では（子どもを）「観る（みる）」という部分が非常に大事になる。
- 幼稚園・保育園における就学前の教育もしっかり書くべき。
- 小中の一貫のカリキュラムだけでなく、幼・保の小学校との連携も見据えないといけない。
- 幼稚園の子どもについて、遊びや生活がもう少し言及を。
- 神戸の子どもたちは、体力が全国標準よりも落ちる。体力に関して子どもを鍛えることに及び腰になっている。子どもに沿うという面と子どもを鍛えるという両面が網羅されるべき。
- 「健康と体力」という部分があまり盛り込まれていない。遊びや生活があってもいいのではないか。
- 中学生は朝食をあまり食べないというデータもあるが、生活や健康があってもその学力や豊かな心だと思う。
- 消費者教育を小中高の間においてしっかりと実施を。
- 日本語教育が必要な子どものデータの中で、英語しかできない子どもというのが全く出てこないのは不思議だ。
- 青少年の教育を充実させ、最先端の技術を担う世代を育てていくことが必要。（西河委員）
- 企業の施設の一般公開など次世代が科学に興味を持つような過し方を企画・提供してはどうか。
- ◇教育の中で、小さい頃から、人間の尊厳の意識やボランティアの精神を植え付けてほしい。
- ◇「日本人と外国人の子どもが違いを大切にし、相互に尊重できる豊かな国際性と人権意識の育成」を記述してほしい。
- ◇「新たに渡日した子どもへの日本語支援と母語の保障による多文化・多民族共生の教育の実現」を記述してほしい。
- △山の南北で全く違うという神戸の特徴を生かして、農業体験を子どもにさせるなどしてはどうか。子どもには、いのちの大切さを教えることが何より大切。

(2) 学校・教職員の力の向上と教育環境の整備

- 発達障害支援について、児童館など窓口の専門性の向上が急務。
- 学校の安全・安心、安全管理ということは忘れてはならない。防犯に関して地域の協力を求めるなど、耐震化と並んで網羅されるべきではないか。
- 教育現場には防災拠点などの機能も集まり、本来の教育機能が土日のクラブ活動を含め大変な負担になっているのではないか。地域との役割分担等も含めて見直すべきではないか。

	<p>△「夜スペ」のような教育の充実や、教員に負担をかけているクラブ活動などの課外活動にボランティアを活用するようなことをやってほしい。</p> <p>(3) みんなで子どもの未来を応援するしくみづくり</p> <p>○子どもを保育所に長時間預けて、親が介在しない時間が増えていくということが本当にいいのだろうか。</p> <p>○親自身が自分の手で子どもを育てていく、未来を豊かにしていくという視点を持っておかないと、保育所がないという議論がひとり歩きすることに非常に危機感を覚える。</p> <p>○子育ての基本は家庭であるのに、支援施策に頼りすぎて本当に自分たちがすべきことを見失っているのではないか。</p> <p>○社会としてのサポートは考えないといけないが、基本的には保護者が家で育てるのがベストであるということについて、コンセンサスを持つべきではないか。</p> <p>○制度が充実することが、親・保護者が見ない時間が長くなってしまふことに終結をしようとする、本末転倒でないか。</p> <p>○地域で育てる中で、子どもを預けたいということはどうしても出てくる。事件や事故等の問題はあがるが、もっと大らかな社会環境をつくっていききたい。</p> <p>○最大の教育環境は教師自身だと思うが、全体で支えるため「先生がやるべきこと」「家庭でやるべきこと」「地域で支えていくべきもの」などに仕分けすることが必要ではないか。</p> <p>○どんな人に育てたいか、どういう人にその人らしく神戸に貢献してほしいかというところが欠けていないか。</p> <p>○感謝の念というものは家庭でしか芽が植え込めない。さらに感謝の念の上に誇りというものがついてくる。そうした理念を大事にしないといけないのでは。</p> <p>○市民像なり人間像を描くときの価値観やコンセンサスについて、審議会が守備範囲なのか、時間もあるのかという問題もある。</p> <p>○子どもと親にもものすごく影響力を持っているのは、テレビ・マスコミであり、マスコミへの対応というところも考えていきたい。</p> <p>○学校施設の地域での利活用をもっと進められないか。例えば、夜も教室や運動場、体育館を使えるように、(地域による)「夜の校長先生」などの発想があってもよいのではないか。</p> <p>○「学校から家庭や地域に対する情報発信の強化」というよりは、情報発信の流れのシステム化など何か具体的な策と、受けた側のフィードバックの仕組みなどがうまくできるとよい。</p> <p>○「家庭・地域・学校の連携強化」について、「学校のニーズに応じた支援人材の発掘」だけでなく、「家庭とか地域のニーズに応じた」というところも考えていけたらよい。</p> <p>○LDの子どもたちは、特別支援教育の中だけではなく、それ以外の周りの支えという比重が大きい。学校教育やPTA等の中での発信というのはぜひお願いしたい。</p> <p>△私の回りには、小学生くらいまでは自分で子供を育てたいと考えている人が多い。働く女性に学童保育という形で支援するなら、家で子供を育てている専業主婦世帯にも何か支援を。</p> <p>△昔は、近所の子供たちの面倒をみて、他人の子も同じように叱ることもあった。今は後期高齢者になりましたが、体のつづくかぎり何かの力になりたいものだ。</p> <p>△子どもが2人いるが、将来大学に行きたいと言われたら行かせてあげたいと思いつつも現状ではできない。本当は4人でも5人でも子どもがほしい。そんな人がきつといっぱいいいる。</p>
<p>大学連携 (審議資料：大学などとの連携による、人材を育てるしくみ)</p>	<p>(1) 大学等の教育機能の積極的活用</p> <p>○地域との協働で酒づくりを行っている。酒税の問題など規制がある中、大学が次のステージを生み出すチャレンジをし、ビジネスマッチングの仕組みにすべて大学が関わっている。</p> <p>○全世帯アンケートなどでも大学と組めば円滑にできるようになる。</p> <p>○人材は大学と市役所が協働で作っていくという観点では、神戸大学などでは、社会人大</p>

<p>み)</p>	<p>学院やサテライトキャンパスのような取り組みが必要である。</p> <p>○企業サイドとしては、英語力が非常に魅力となる。神戸には外国語大学もある。神戸に行けば、行政が英語教育を支援しているというのもよいと思う。</p> <p>○市内に大学を残しているのは正解だと思う。学生が多ければ、街の治安も良くなる。夜中の街中でも若者の目が多く、犯罪が少なくなる。</p> <p>○今後、大学の充実にさらに力を入れるべきである。ボストン・ケンブリッジのように、良質な大学をまちづくりに活かせばよい。</p> <p>(2) 大学等の知的資源・人的資源等の積極的活用</p> <p>○政策決定に市民をどう参画させるか。神戸大や県立大の知的財産をどうやって使うか。市民、研究者を政策立案にどう関与させるか、考えるべきである。</p> <p>○退官した先生などに専門性を再度大学で活かしてもらったり、神戸市の為に働いてもらうのが良い。</p> <p>○ファシリテーターとしての大学の役割で言えば、大学の先生に地域ファシリテーターになってもらっているケースは多い。</p> <p>△市内にある大学の知、特に人材の積極的な活用、場の提供に努めてもらいたい</p> <p>(3) 産業界などとの連携による人財育成</p> <p>(4) 地域を担う人財育成</p> <p>○地域の就業構造に対して自治体が手を入れないことには明るい展望が開けない。「NPO・社会的企業等」では、大学との連携などがしやすい分野である。</p> <p>○大学の効用を感じるのは、学生を連れていくと、地域の人が喜ぶことだ。</p> <p>○文科省からも地域貢献のプレッシャーがある。大学はそういうチャンスを探しているのので、いくらでも連携の場を求めている。</p> <p>△優先課題は一人一人の人間を育む人間教育。未来の神戸を眺め、現在の神戸の実態を検証して、今、私（個人）は何をすべきか、平等の立場に立って推進してゆける人材育成に着手すべき。</p>
<p>防災・防犯①</p> <p>（審議資料：災害などの危機に備えた安全な都市空間の形成）</p>	<p>(全般)</p> <p>○「災害危険情報の整備充実や共有化」とあるが、災害時はいわゆる協働がなかなかうまくいかない。それぞれがなすべき役割を果たすことが重要となる。</p> <p>(1) 都市基盤等の整備・維持管理</p> <p>○東南海地震などに対応した都市機能を備えるなど、記述内容を充実させてはどうか。</p> <p>○「六甲グリーンベルト」という大きな構想に関して触れられていないが、だれが緑を守り、育てるのかを市民の間で共有しておくことが重要となっている。</p> <p>△災害に強いまちをと言うが、毎年起こる風水害のためなどの対策は全くとられていないように見える。</p> <p>△恵まれた自然を大切にするためにも高層ビルやマンション建設を規制するべき。条例を改正して規制しないと。その方が災害に強いまちづくりにつながる。</p> <p>(2) リスクを小さくするための土地等の使い方の工夫</p> <p>○地震が起こっても、被害については場所ごとに異なる。表面上同じに見えても、その土地がどのような成り立ちでできているのかを知ることが大事である。</p> <p>△鉄砲水による水害などの被害が続いており、各家庭、事業者が雨水貯留タンクを設置した際、1/2の助成制度を実施してほしい。洪水緩和や節水、被災時の水利用などメリットが大きい。</p> <p>(3) 地域力による安全性向上へのリスク情報の活用等</p> <p>○「減災」の視点が、ハードウェアも含めてなのか、しくみのソフトウェアの話なのか明</p>

	<p>確にしておくべき。</p> <p>○安全への意識を高め、一人ひとりの減災への取り組みが、みんなのためのまちづくりにつながっていくということが見えるような取り組みが必要。</p> <p>○防災は公的機関が行うイメージで、減災は個々のひとが力を出し合い、一人ひとりができることをやっていく。</p> <p>○すまいの耐震化の実績も増えていない。市はPRをやっているというが、カタチだけになっているのでは。もっと人も配置すべき。</p> <p>○耐震改修も大事だが、防火改修も重要。ねばり強く取り組むことで、まちの防災力の向上にいずれ、つながっていくはず。</p> <p>○市民は目先のことは気になるが、長期的な取り組みとなる災害に対する意識改革が必要。</p> <p>○ハザードマップをみんなで使う時代になってきた。ハードの整備も大事だが、ソフト施策にお金をもっとかけるべき。</p> <p>○マンションの被災時の対応も課題だが、危機のときに、管理組合として機能するためには、日常のコミュニティづくりが重要になってくる。</p> <p>△一般TV番組での気象情報を放映を希望する。どのチャンネルでも警報が出ていても大きくニュースになっておらず、インターネット接続できない世代のための災害ニュースの改善を。</p>
<p>防災・防犯② (審議資料：安全なくらしをまもる)</p>	<p>(1) 防災意識の高揚</p> <p>○「震災教訓の次世代への継承、他都市への発信等」は行政がやっていることだけでなく、民間で熱心に交流が行われている。</p> <p>○震災の教訓の発信というと神戸だけが知っていてそれを他に教えるというイメージがあるが、それは驕りである。山越の中越地震の後の経済的自立に向けた取り組みから教わることもあった。</p> <p>○強みの中に、減災に対し意識が強い都市もあると思う。減災都市を産業に結びつけるまでではないが、災害への備えや思いやりのある街というのは都市の魅力となりえる。</p> <p>△地域の小学校でバケツリレーなど訓練をしているが、他の自治体で具体的な活動をやっているのをテレビで見ると、自分達はもっと何かしなくていいのかと思ってしまう。</p> <p>(2) 協働による安全なまちづくり</p> <p>○災害時は協働がうまくいかない。それぞれがなすべき役割を果たすことが重要であり、それぞれ何をすべきかがもっと書き込まれていけば理解しやすい。</p> <p>○「減災」の視点が、ハードウェアも含めてなのか、しくみのソフトウェアの話なのか明確にしておくべき。</p> <p>○児童館の子どもたちと地域の高齢者との交流を行い、自分たちが地域の中で大切にされているという実感をもつようになった。人と人との関係性ができると、安全・安心につながっていく。</p> <p>○防災福祉コミュニティは小学校区単位であり、実際の災害時には少し広すぎる。次のステップでは単位自治会レベルでの仕組みが必要。</p> <p>○小学校区というのは、小学生やお年寄りが移動できる範囲であり、防災活動はできている。小さく割りすぎると、リーダーが大勢になることで混乱しないかが心配だ。</p> <p>○インフルエンザについては、9月以降の大流行の不安が残っている。教職員や保育士が感染した時に、誰が子どもたちを見るかという危機管理上の課題がある。</p> <p>○防犯についてパトロールなどわずかしき記述がないが、ひったくりや空き巣が急増するなど防犯の課題は多い。事実を押さえて、その上で施策を考えるべき。</p> <p>○防犯は、どの地域でも行っている最も基本的な取り組みだ。</p> <p>○防犯については、日本は世界で一番安全という評判だったのが崩れてきている。警察官を減らさないよう、県に働き掛けてほしい。</p> <p>△駐車違反の取締を自治会等に協力・依頼し、ある程度の権限を与える。ゴミステーションのマナーも同じように拡大することにより町の美化環境問題にとりくむ。</p>

<p>環境①</p> <p>(審議資料:水と緑を大切にしました都市空間の形成)</p>	<p>(全般)</p> <p>○ゾーン構成について、神戸は、まち、田園、みどりのゾーンだけでなく、まちと一体となった海(水、水面)のイメージが重要である。</p> <p>○海や河川を意識した記述が少ない。河川について防災面も含めて空間構造や文言でも触れられていない。</p> <p>○水(河川・海)・公園緑地・森林のあり方を、各ゾーン別の課題として整理したために、環境インフラとして都市づくりに重要な視点であるという認識が抜けてしまっている。</p> <p>○まちのゾーンでは施設としての川、施設としての公園しか出ておらず、行為としての緑化という視点がない。</p> <p>○六甲山のもつ冷涼な空気や生物多様性などをまちのゾーンへどうつなぐかということが重要だが、これもゾーン別に区切ったことによって書きづらくなっている。</p> <p>○震災後、緑化を通じたまちの復興・再生にたくさん取り組まれてきたようなことが抜けている。</p> <p>○田園あるいはみどりのゾーンは、産業としてよりもむしろ環境としてどう成立させるかという視点がないと維持できない。</p> <p>△都市の中に恵まれた自然が同居するのは他府県ではあまりない。この貴重な財産を見直し、誇りに思うことがまず大切である。</p> <p>(1) まちのゾーン</p> <p>△緑多い環境、素晴らしい海の本当の貴重な財産を無視した開発はもうやめてほしい。住民が喜んで生活できる神戸にしていきたい。</p> <p>△そろそろ成熟した町を望む。(物が溢れるような生活でなく)質の高い環境が人を育てると思う。まず緑をもっと増やしてほしい。</p> <p>(2) 田園のゾーン</p> <p>○田園ゾーンの記述に地産地消、まちづくりとの連携というキーワードをいれてはどうか。また自給自足をめざすことを記載すべきではないか。</p> <p>(3) みどりのゾーン</p> <p>○夜景を売り出すと言いながら、六甲山のアクセスは非常に悪い。アクセスできなくては大きなマイナスで、現実とあっているのだろうか。</p> <p>△海と山にはさまれた素晴らしいまちで生活するために、山を大切にしたい。</p> <p>△六甲の緑は、質的な充実を図る時期に来ており、その施策を進めるためには守るばかりの現行条例には矛盾が生じている。活用する視点が今後の最重要になるのではないか。</p>
<p>環境②</p> <p>(審議資料:環境にやさしく持続可能なまちをめざした取り組みの推進)</p>	<p>(全般)</p> <p>○めざす将来の姿に、地域特性に合わせて省エネルギー製品をどう使いこなすか、利用に関する戦略を考えていくという項目を入れてはどうか。</p> <p>○まず街区レベル、地区レベル、まち全体のレベルで描き、最終的には環境的なインフラ自体も見える大きな流れを描けば、相互に浸透させていくことが可能になる。</p> <p>○環境は、個別の仕組みであったり、ハード施設に分断される側面が強いので、神戸市はそういうものを率先してつないでいるという姿を望みたい。</p> <p>○環境の面については空間政策としてどう打ち出せるかが重要であり、もう少し最終的な検討を深めていく必要がある。</p> <p>△子供が生まれてから特に、「自分が生きている間さえいい境遇、何とかなっていればいい」ではなく、未来も子供や孫の世代も住みやすく、いい神戸であってほしいと思うようになった。</p> <p>(1) 温室効果ガスの削減に向けた取り組みの推進</p> <p>○大型客船などが停泊中に陸電という形で電気をとることができれば、CO₂排出抑制に貢献できる。神戸が先鞭をつけられれば、大いにPRできるのではないか。</p>

	<p>○都市で自ら資源やエネルギーをつくり出しているところではなく、よそから使わせてもらっていることを市民に対して説明したうえで、省エネルギーを呼びかけることが重要。</p> <p>○産業部門ではかなり努力して削減している。運輸・家庭・業務など全般的なところでの推進という表現をお願いしたい。</p> <p>○「環境NPO団体や学校との連携による環境教育」とあるが、NPOに限定する必要があるか。「環境関連団体」のような表現でよいのでは。</p> <p>○2020年25%削減のモデル計算では、産業部門は18%削減、家庭部門は62%削減という数値になっている。まちづくり部門が相当頑張れと背中を押されている状態。</p> <p>○さまざまな試みを「だれの負担で」「どの地域で」具体化するかが重要。地域で投資するコミュニティビジネスのような仕組みを取り上げてほしい。</p> <p>○25%削減を前提にした取り組み方や方向性を、今この時点で神戸の長期計画に織り込む必要があるかどうかについては、若干の疑問をもっている。</p> <p>○「六甲山は車を排除しては」と以前提案して怒られたこともあったが、低炭素社会をめざすなら大胆にそのような取り組みをしてもよいのでは。</p> <p>△市内の照明、不必要なものが相当あり、住民を集めた分科会を作って、具体的な情報収集と対応策を考えては如何か。</p> <p>(2) ごみの減量や資源化に向けた「3R」の取り組みの推進</p> <p>△リサイクルに協力する市民にはエコポイントのようなものがあるほうがいい。ペットボトルを水でゆすぐにも水道代がかかるわけで、協力した見返りは必要。</p> <p>△ゴミの分別は、燃えるゴミはビニール系とそれ以外を分けるべき。もっときめ細かく分別しないと減量にならないはず。横浜市は数千億の効果を上げている。</p> <p>(3) 環境に配慮した意識づくり・まちづくりの推進</p> <p>△大型店舗化は考えどころ。遠くまで買いに行くには車がいる。元気な間はそれでいいかもしれないが、エコから言うと考えもの。歩いて用がたせる方がエコにつながる。</p> <p>△エコサイクルの考え方は市よりも民の考え方がはるかに進んでいる。全国に先がけて、ドイツのような取組をして、全国のモデル都市として欲しい。</p> <p>(4) 都市基盤施設における環境に配慮した取り組み</p> <p>○ローカーボンゾーンという概念がある。スマートグリッドなど先進的な取り組みを取り入れ、環境インフラの推進ゾーンとして設定するなど空間に落としていく事ができないか。</p> <p>△低炭素社会実現のためには、一時期の初期投資を厳しい予算の中で割り振ってもらいたい。神戸市の設備は目の前の初期投資を削ってガス空調などを採用しコストとCO₂増を招いている。</p> <p>△他都市のまねでなく神戸が日本で最初の発信をすすめる。例えば、温暖化防止対策に全市立学校で太陽光発電・風力・水力・その他その地域に合せた発電を利用する。</p> <p>△六甲山の頂上付近に東西、10キロにわたり太陽光パネルを設置する。海上には、風力発電（常に東西の風が海上では吹いているはず。）</p>
<p>人権・UD (審議資料：一人ひとりを大切に)</p>	<p>(全般)</p> <p>○UDと言うと、バリアフリーに限りなくイメージが近づいていく。</p> <p>○UDは社会活動の基盤に属する話だと思う。</p> <p>◇一人ひとりが能力を発揮するには、置かれた立場に関わらず、能力ある人がいつでも受け入れられる社会であるべき。</p> <p>△何事も根底に「人間らしい心」があれば構築していけるだろう。この大転換期をひとりひとりが心したい。</p> <p>△「平和を大切に」を基本にする姿勢がすべてに優先することが抜けている。</p> <p>(1) 一人ひとりを大切にすること意識づくりの推進</p> <p>○在住外国人への対応は重要な視点と思う。</p>

- 神戸の国際的な感覚をもっと採り入れた施策がいる。
- 在住外国人の意識調査をして、地域の実情に応じた地域活動ができるようなコミュニティをつくりたい。
- 外国人コミュニティと言ってもいろいろな国の人がいて、ニーズもそれぞれ異なる。
- 外国人でも長期居住者や外国企業の役員以外が問題を抱える。
- 県も市も多言語で情報発信しており、後はそれをどう活用するかという問題である。
- 外国人定住者のごみ分別マナーの悪さを指摘されることが多いが、日本人でもマナーを守れていない人が多い。
- 外国市民の文化性への理解を広め、そして深めていくことが必要である。
- 外国籍市民のコミュニティやNPOとの連携や共助を進めていくことなど、サポートの一層の推進が必要である。
- 外国人として差別や不便、社会で暮らしにくいという状況が現実にはたくさんある。例えば、家の賃貸など。
- 国籍の問題や夫婦別姓の問題など、具体的にどう対応したらいいかという悩みがある。
- 障害者を知らないために怖いというイメージを持っている人が多い。自治会・婦人会の敷居は高く感じられ、行政に口添えしてもらおうなどして、地域の理解のための活動を進めたい。
- ◇差別をなくすための教育・啓発は大切。
- ◇人権教育・啓発を進め、市民の自主的な学習意欲を高めるべき。
- ◇神戸が先導を切って外国人と共生する社会をめざしていただきたい。
- ◇内なる国際化・外国人市民の人権尊重等の内容を、市民生活部門の大項目に位置づけてほしい。
- ◇年齢・性別・文化・身体の状況だけでなく、民族の違いに関しても、個性や違いを超えて互いに認め合い尊重すべき。
- ◇「外国人市民への差別のないまちづくり」「日本語理解が十分でない市民を尊重したまちづくり」を記述してほしい。
- ◇基礎的なデータ（市内在住国籍別外国人数とその変遷、市教委調査による国籍別外国人児童生徒の本名使用率とその変遷、外国人市民生活実態・意識調査結果等）を、基礎資料として挿入してほしい。
- ◇DV 被害者支援について、NPO との連携などを深め、先進都市をめざしてほしい。
- ◇DV 防止には、中学・高校頃からの啓発が効果的だ。
- ◇外国人女性は DV 被害など人権を侵害されることが多く深刻な状況にある。
- ◇男女共同参画を、すべての計画の大前提にすべきである。
- ◇心の面でのバイアフリー化、UD 化はまだまだ出来ていない。地域のまちづくり等、UD の話に障害者も参加できる様にするべき。
- △人は「誰かのために」働き、役に立ちたいと思う生き物だと思う。人のため、地域のため、大切な人が住む神戸のため、と思う人の気持ちがちを発展させるのではないか。
- △外国の方や障害者に対する差別的行動が多々見受けられるので理想論だけでは解決できない。具体的にどのように進めるのか。人権問題も絡むので難題であるが、進めなければならない。
- △子供たちにモラルやマナー、人間として大切なことを教育し、大人と共に学べるように。人が正しく生活し、働き、健康に心がけることができる環境づくりをめざしてほしい。

(2) 誰もが参画できるしくみづくりの推進

- 人間の持っている可能性にどのような形で光を当てていくか。市民と事業者と行政がいかに協働でそういう条件づくりができるか、そのためには何をすべきかというのをこの計画で書き込む必要がある。
- ユニバーサルデザイン（UD）が扱う領域をどうとらえるか。ハード面の、しかもこれまでのバリアフリー基準を前提にしたようなとらえ方はどうか。
- UD の基本はノーライゼーションをどこまで追求するかということ。

	<p>○市営住宅など場において、完全にはバリアフリーになっていない。</p> <p>○UDの実現には、救急の視点も必要。</p> <p>○ユニバーサルというときには、やはり制度というのが最も重要。アメリカなどでは公的文書、私的な一般書籍を問わずすべてデジタル化をすることが義務化され、音声で読み取ることができるようになっている。</p> <p>○ICTの活用は、障害者も高齢者も子どもも主体的に参画してお互いの助け合いの発信ができるものであり、すべてのベースに使えるものだ。</p> <p>○どうしても障害＝弱者ということになりがちだが、ICTを使えば弱者でなくなることもある。</p> <p>○区役所窓口に通訳者を常駐させていただくことも検討していただきたい。</p> <p>○UDという言葉の認知度は、たいへん少ないように思う。どのように普及啓発しているのか。</p> <p>○地域でいかに我々外国人がまちづくりに協働していけるか、何とかしていきたい。</p> <p>○外国人はマイノリティであり、表に出にくい人たちの意見をいかに反映し、社会の活性化に結びつけていくかということが課題。</p> <p>△足が不自由なため、この前の衆議院選挙の投票に行けなかったと聞いた。そのような人がたくさんいると思う。1人1人が権利を果たせるしくみが必要。</p> <p>△日本人市民の連携のみならず、長期在留外国人への地方自治体参政権・選挙権付与など多文化共生の互惠精神を発揮すべきだ。</p> <p>(3) 安全・安心で快適なまちづくりの推進</p> <p>○UDを特定の組織や団体だけの取り組みではなく、形式にはまらないで広めていくことをどうやって実現するかがポイント。</p> <p>○各区のふれまち協等の活動は、神戸らしい地域でのUD活動だ。</p> <p>○外国人への対応など「観光」ということをUDの視点からとらえ直すことを柱にしてはどうか。</p> <p>△未来に向けては、神戸市はユニバーサルデザイン都市として世界にアピールし先導する位置を確立するための取組を最重要項目として展開すべきだ。</p> <p>△『ありがとう・すいません・ごめんなさい』などの言葉をかけ合える町といった、お互いのささやかな力を出し合うことで気持ちよく住める神戸でありたい。</p> <p>△地域にあって人と人とのつながりがすごく希薄になっていると感じる。あいさつができない。日常の会話に思いやる心が欠如している。</p> <p>(4) 市民の主体的な誰もが使えるものづくりを推進</p> <p>○既存産業の活性化の中で、UD商品の開発に対する市からの技術、資金、PRなどの支援を考えてほしい。</p> <p>○「市民の主体的な誰もが使えるものづくりを推進」という文章は意味がわかりにくい。</p> <p>△ノンステップバスだが、車内の段差が多いと思う。車内も一応フラットで、つかまり棒も多くしてほしい。</p>
<p>コミュニティ (審議資料：自律的な地域コミュニティをつくる)</p>	<p>(全般)</p> <p>◇地域団体の活動エリアが微妙にずれていることに疑問を感じる。</p> <p>△コミュニティが崩壊（特に神戸の都心部）しているところに“地域主体のまちづくり”を進めようとしても難しい。また、特定の人に負担がかかり、若い世代の不公平感は強い。</p> <p>△個人情報の開示がなされないので近隣住民の動静が不明となり、問題が生じたときの対応ができない社会となっている。それ故に親しみのない冷たい社会が生まれている。</p> <p>(1) 人と人とのつながりが豊かな地域コミュニティの形成</p> <p>○福祉先進都市神戸のあるべき姿として、ノーマライゼーションとともに、包み込み、ともに受け入れる「ソーシャル・インクルージョン」ということをはっきりと出していく</p>

必要がある。

- 特にマンション等への入居者が増えてきている状況の中では、「都市型の限界集落」ということをどのように考えるかは入れておいた方がよい。
- 地域対しては役割を明確にし、「この部分のこれをお願いします」と明確に言わないと、動いてもらうのは難しい。
- 地域は「地域のために、子どもたちのために、高齢者のためにみんなでやろう」と思わないと動かない。地域と言うのは、嫌だと思ったら、その日でみんな活動をやめていくものだ。
- 地域の高齢者との交流で、児童館の子どもたちは自分が地域の中で大切にされているという実感をもつようになった。人と人との関係性がしっかりできてくると、安全・安心につながっていく。
- ふれまち協はよい仕組みだが、必ずしも地域力を高める仕組みではない。地域自身がガバナンスできるようにしていくようなコミュニティをもう一度作り直すと言うのも一つの考え方である。
- 地域福祉センターが核になって、高齢者同士が助け合う福祉銀行などを通じ、安全・安心をつくっている。連携が非常によくとれていると思う。
- 防災福祉コミュニティは小学校区単位であり、実際の災害時には少し広すぎる。次のステップでは単位自治会レベルでの仕組みが必要。
- コミュニティの単位として、小学校区は子どもの数の変化によって変動し、統計の単位にもなっていない。住民自身が自分たちのまちと感じられる範囲を基本に考える必要がある。
- 小学校区というのは、小学生や高齢者が移動できる範囲であり、防災活動はできているのではないか。小さく割りすぎると、リーダーが多くなり混乱しないか心配だ。
- 小学校区という地域が大きくなりすぎていないか。地域団体の連携がうまくいっているところとそうでないところがはっきりしている。どの範囲を地域ととらえるかは場所によって違う。
- 計画で小学校区を単位に考えることはよくある。計画をつくる側にとってはつくりやすいが、生活の実態に合っていないことも多い。
- 行政主導で「コミュニティをここからここまでくくって作りなさい」などというのは本末転倒であって、決してしてはならない。
- 小学校・中学校のジュニア防災チームをやっているが、学校行事などとの調整はたいへん難しい。いろいろ配慮があって、初めて学校とも協力してやっていける。
- 児童館は中学校区に1つしかないという話があったが、児童が多いところは特例で児童館をもう1つつくってもらっている。
- コミュニティのところで、社会教育、学校教育の役割が抜けているように思う。
- ◇集合住宅が増え、その住民が自治会に加入しただけでないケースが増えた。集合住宅こそ隣近所の付き合いが大切であって、しっかり理解を得れば、自治会加入率は必ずしも低くならない。
- ◇子どもが小さいうちは、子育てを介した地域のつながりがあっても、育った後は途切れてしまう。
- △生活をよりよくすることは大切だが、まずは基本となる土台を作ることが一番。人間は「つながり」が土台だと考えているので、非常に共感できた。
- △超高齢化が進む中、自分中心の生活になり、犯罪が多発し、人のつながりが薄くなるのが心配。「思いやる」心が大事だ。震災の時の皆のやさしさはどこに行ったのか。
- △いろいろな事件がありすぎて、つながりをどこまで大切にすべきか悩むところ。子供たちにもあいさつを知らない人にもしなさいと言えない。そのような不安をなくしてほしい。

(2) 地域を支える人材等の育成

- すばらしい人材という資産があることに気づいていないのではないかと。市民との協働と

いう文章表現はあるが、具体的な取り組みの形が見えない。
 ○団塊の世代の方が、地域のために活躍するのは重要だが難しい面も多いので、その手立てについて記述しておく必要がある。
 ○大量に退職者が出ることでボランティアの増加に期待したが増えていない。シニアの地域デビューのきっかけづくりや、情報が届く仕組みづくりを進めてほしい。
 ○長田ではまちはきれいになっても、若い人がすっかり減り、地域活動を担える人材もいなくなっている。
 ○地域コミュニティづくりが、現在のようなボランティア頼みでいつまでやっていけるか。仕事として公共サービスを担うようなコミュニティがこれから必要だ。
 ○大学の社会起業学科をつくった。今後、社会参加や社会貢献を進めて地域づくりを裏方からサポートする社会的企業のプロ集団をつくりたい。
 ○小学校区ごとに、「地域福祉センター」があり、様々な団体にも入ってもらい地域の福祉活動の半分ぐらいはここでできているのではないか。
 ○ふれあいのまちづくり協議会はよい組織になったと思う。一方で現場では、それぞれの人が自治会長、婦人会長などの肩書をつけたまま活動しているので、ややこしくなっている面がある。
 ○様々な目的に応じた「重ねあわせのコミュニティ」を提唱したい。ふれまち協だけではなく、井戸端会議を通じた安否確認なども含め、無理なくつながることができる枠組みを。
 ◇教職員や公務員のOBなども含め、退職後の人材にはぜひ地域活動に積極的に参加してほしいし、採用時に義務づけるぐらいのことはしてほしい。
 ◇ジュニア防災チームや、学生との連携など、若い力を地域で活かすことが重要。
 △資源ゴミの分別、業者に渡す作業を婦人会がしているが、高齢化で携わる人が少なくなっている。自治会は若年層は皆、多忙な人が多い。自然消滅の状態、後継者がいない状態。
 △団塊世代が自治会活動に熱心にとりくむのは結構だが、現役世代をまき込まないでほしい。「地域の力」といいながら週末を邪魔したり、プライバシーに踏み込むのはいい加減にしてほしい。
 △高齢者であっても健康に恵まれ高い経験と能力を持っている人がいる。年令だけにこだわらず、知識豊かな人が能力を発揮できれば素晴らしい神戸になるだろう。
 △地域社会に貢献したいという気持ちを持つ年輩者は多い。活発な人は既に動いているが、気持ちだけで踏みとどまっている人を動かす知恵がほしい。

(3) 地域活動に参加しやすいしかけづくり

◇団塊の世代は NPO 活動への関心が高く、そのような形ででもまちづくりへの協力が得られればと思う。
 ◇学生はまちづくりの大きな力になる。
 △文化的、歴史的また人種的に異なるコミュニティが他を排除せず、異なる人々を広く受け入れ交流をすれば、もっと活力が生まれると思う。小さな市が各区で自然発生的に立てば面白い。
 △行政情報弱者対策を。広報紙で「詳細はホームページで」と案内されても PC（パソコン）を持たない（持てない）ものはどうしようもない。端末を役所・大規模スーパー等に設置を。

(4) ゆるやかな連携（地域ネットワーク）の促進

○パートナーシップ協定を結ぶにあたって、地縁型の組織、ふれまち協、防災福祉コミュニティなどどんどん入って重ね合わさることが大切だと考えている。
 ○範囲は小学校区を最大限として、それより大きくはしないこと。大きくなりすぎると、官僚的なシステムになり、うまく機能しなくなる。
 ○重層的なコミュニティをつくっていくことは、神戸はやりやすいのではないかと。パート

	<p>ナーシップ協定も使っているいろいろなタイプのものをつくって全国に出荷していくような、大きな戦略を描いてほしい。</p> <p>○様々な問題に取り組めるようなコミュニティをイメージしている。今のように縦割りであれば、力が分散し、後継者の育成がしにくいという状態を克服できないか。</p> <p>○震災後に「見守り会議」というものができて、当事者や近隣の人、行政などが入り話し合いを行っていたが、いつの間にか地域から消えていった。段階的にこうした会議を作ってはどうか。</p> <p>◇自治会とふれまち協の活動の重複が気にかかる。活動するエリアが異なる場合もある。</p> <p>△自治会等の組織のないまちが多く、何をすることも協力が得られない。市内全部のまちに自治会ができるように指導を。</p> <p>△各地区に自治会があるが、我々のところでは壮年層は共働きが多く多忙。高齢者は孤立している。隣接の自治会を有機的に結びつけ平準化する方法はないものか。</p> <p>△各学区に「ふれあいのまちづくり協議会」があるが、この機能を一層向上させ、市民間の交流を深め、共に助け合う社会をつくりたい。</p> <p>(5) 地域の実情に応じた地域活動支援</p> <p>○地域の実情に応じた地域活動支援について、もっと書きこんでほしい。</p> <p>◇指定管理の仕事をもっと広げてほしい。</p> <p>◇統合補助金を集中管理する方式は、かえって地域内でもめ事の芽になりかねない。</p> <p>△地域住民により企画・立案された地域で取り組まなければならない社会事業について一般公募し、第三者機関と行政で調査審査を行い、公共性のある事業に行政の支援を行う制度があっても良い。</p> <p>△『地域主体または市民主導のまちづくり』を進めていくには、まだ市民のまちづくりに関する認識・意識が薄い。まちづくり協定などの存在をさらに幅広い層の市民に知ってもらう必要がある。</p> <p>(6) 地域コミュニティを支えるしくみづくり</p> <p>○横断的連携によるコミュニティづくりを実現するため、庁内に窓口をつくったり、区別のプラットフォームをつくるなど、自立度の高いコミュニティをつくってほしい。</p> <p>◇身近な区役所に権限が集まり、そこで用が足りる方が、コミュニティにとって望ましい。</p> <p>◇地域担当職員は、様々な部局のボランティアな人材によるチーム制が望ましい。</p> <p>△地域主体として何事も地域がするのではなく、役所も交える。今は地域に任せっぱなしで役所の方は答だけを持って帰る。役所の方はもっとサービス精神を持ってほしい。</p>
--	---

(2)「経済」分野

<p>地域産業 (審議資料：地域産業の活性化)</p>	<p>(1) 市民の生活に結びついた農漁業の活性化</p> <p>○農業の総生産は10兆円を切っているが、そこで生活している人が多くいるので、食料自給率を上げて生産性を上げるようにもって行くことが必要。</p> <p>○食料自給率などが国の大きなテーマとなって規制をかけない、地方に委ねるとなれば神戸での展開も可能でないか。</p> <p>○現状と比較して15年後にこのまま進めばどうなるのかが分かれば、例えば地産地消を20%にするなどの市民一人ひとりの心がけが全体を動かすことにつながるだろうと思う。</p> <p>○コーディネーター役が必要と思う。例えば、洋菓子とカシスやブルーベリーなど、需要と供給を結びつけるよう提案していける人が多く出てくればよい。</p> <p>○神戸の農業は、一歩踏み出して、会社方式で進めることも考えていくのかどうか。その進め方をするとすると、都市空間上の対応も必要になってくる。</p> <p>○神戸の農業は、食、健康、医療、観光などの魅力的なキーワードとうまく融合させれば、大都市圏での農業をうまく作っていけると思う。</p> <p>○もっとも大事なことは、後継者問題だけでなく、まさに新規参入であると思っている。</p>
---------------------------------	--

企業のノウハウが入ってこないと農業再生はない。

- 農地法の改正で、農地の効率的利用促進が可能となり、集落・農業者・関係団体・神戸市など連携し、農業資源を有効活用する施策の推進がより有効。
- 北・西区の農家は6千あるが担い手が減っている。減反地で米粉などを作り、米粉パンを学校給食、ベーカリーなどで使うなど担い手、農業が増える施策が打ち出せたらいい。
- 震災後、花隈などの料亭もなくなり、高付加価値産品も量販店を通じた流通となり厳しい。地産地消の核を市でなんとか担っていただければと思う。
- 魚の価格だが消費者の手元では3倍になっている、マージンがどれだけとられているか。消費者がだまされている。大型店舗の規制が必要。
- 大型店舗の問題だけかどうかは難しい問題かもしれない。
- 商業、農漁業も、「業」として成り立つ施策を本気で考えないと、後継者も新規参入もなく魅力ある産業となっていくかない。自ら企画開発、人材育成の施策を考えないといけない時期にきている。
- 神戸では六甲山の裏側に農業地域が広がっている。これをうまく利用して神戸の魅力・ブランドの向上と付加価値につなげることが出来ればよい。
- 産地で採れた新鮮なものを、そこで食べさせる工夫をすれば良い。ニーズ側・観光客に向けて考えるようにすべき。
- △神戸は農業の面で高い潜在力を持っていると思うが、西・北区で農地の減少が進んでいる。これに歯止めをかけ、若い力が農業に入り込めるしくみがほしい。
- △豊かな農地がある神戸で、子供達が農業収穫体験できる機会を創出する。

(2) 地域の生活に結びついたものづくりの活性化

- 中小・零細製造業は、技術力は世界に通用するが創造性という点で弱い面がある。震災後、倒産件数は全国比較では少ない。倒産の大半は後継者がいなかからである。
- 危惧することは、大企業が事業編成替えなどで神戸・兵庫から出て行くことと、価格競争の激化である。技術があっても客が低価格志向なのが課題である。
- 地域の活力を何によってはかるのかを明確にする必要がある。起業数、研究所の誘致など、何をどう増せば活力・魅力になるか、目標を立てること。
- 技術が進んでおり1台数千円もする設備投資が必要で大変である。新規の起業数では難しい。指標は、生産高とか雇用数だと思う。
- 既存の産業を活性化するという視点の中に、UD 商品の開発に対する市からの技術的・資金的な支援、あるいは、できたもののPRなどの情報支援を考えてほしい。
- 長田の町工場が西神・北神の工業団地に移転し、人もそちらに移り、元気がなくなってしまう。ケミカルシューズなども、アジアに生産拠点が移り、仕事がなくなっている。左官や大工の仕事もない。
- 少子化でものづくり人材の不足である。科学技術高校の卒業生400人のうち大学進学が多く、100名程度しか就職しない。技能者・技術者人材育成が必要である。
- 長田ではまちはきれいになっても、若い人がすっかり減り、地域活動を担える人材もいなくなっている。若い人が地元で住み続けて仕事ができ、まちを盛りたてていけるようにしてほしい。
- 市民はスイーツをまちの誇りとしていて、小さな満足は自信と誇りになる。多くの市民が消費し受け入れられるパンや洋菓子は裾野が広い。神戸のまちの魅力づくりのヒントになると思う。
- クルーズは、造船業など産業の育成にもつながる。客船にも目を向けておくべき。
- スイーツはブランドイメージとしては高いが、デパチカでは名古屋が1位である。灘の酒も高付加価値のある品質力という点ではどうか。ファッションも日本を席卷する時代ではなくなってきつつある。
- 神戸の資源をうまく育てていないことは行政側にも問題はある。比較的豊かだったのかハングリー精神がなくなってきた。

	<p>(3) 地域の商店街、小売市場の活性化</p> <p>○商業は家主業に変わっていて、家賃で食べていて商業はやってないところもある。商業では食べていけない、そのような状況である。</p> <p>○商業も震災後は地域のプラットフォームとしての役割を果たしてきたが、そろそろ「業」として成り立つ施策を本気で考えないと、後継者も新規参入もなく魅力ある産業となっていく。</p> <p>○産業としてのあり方を抜本的に見直し、既得権益に縛られることなく、地区としての姿勢を示す構図があれば変わってくる。投資資金がしがらみの少なくなったところに入ってくるだろう。</p> <p>○新規開業、新規分野の開拓、サービス技術の向上、有望な仕入先を開拓しようとし、かつ、その情報をどうしても聞きたい商人に対する相談所（人脈等を通じて繋ぐ機能）を設けてはどうか。だれか取次ぎを保証する人がいれば、よりつながりをもちやすくなり、情報を得やすくなるのではないか。</p> <p>○強い個店が自然に集積している商店街が一番強い。取り扱っている商品・サービスの専門性が高く、独自性があれば、商圈も広がるし、独自の客が来る。</p> <p>○商業機能として、空き店舗に対して、中長期的な観点からの記述が必要と思う。どういう人材が空き店舗をどのように使っていくのかについても触れてほしい。</p> <p>○車で行くような大規模店舗ばかりが増え、地元の小さい商店やスーパーなどがつぶれていっている。大規模店舗には何らかの規制を検討すべきではないか。</p> <p>○思い切って地域の市場の都市計画的手法による集約が必要でないか。また中央市場の西側再開発は、誰かがコーディネーターとなって小売機能を持たせるといった方向性を打ち出せないか。</p> <p>○2001年から5年間で1～4人までの事業所数が廃業、倒産などにより2千5百減ったが、これは商店街に対する行政の不備である。歴史ある商店街をどうやっていくのか考えていかないといけない。</p> <p>○消費者からすると安いものが買やすく手に入ればよい。量販店はコストを下げるために常に流通システムを改良し続けている。行政からいい仕組みを提案できればと思う。</p> <p>○人の気持ちを支える仕組みがないと起業しても続かない。利用者の求めるものを供給側がわかっていることがありがたがられ、求められている。高付加価値で高いものが売れる仕組みもある。</p> <p>□消費の観点からは三宮は相当小さい。集客力が落ちている。大阪だけでなく、西宮などとの競合もあるだろう。これらへの対策も神戸は必要であろう。</p> <p>□神戸では中堅企業を大事にするべき、あと小さな老舗なども大事にするべき。</p> <p>△少子・高齢化が進み購買力も低下しているのに、大型量販店やコンビニエンスストア等の進出で、市場・商店街の商売人の廃業等で活気がなくなっている。行政の強力な行動（テコ入れ）を。</p> <p>△例えば再開発ビルの空店舗を有効利用する。低家賃で個人・自営業店舗を入居させ活気を戻す。高齢者・障害者・子育て世代などへの公共サービスなどのスペースとして人の集まる場所に。</p>
<p>社会的企業 （審議資料：くらしを支える企業の育成）</p>	<p>(1) 家庭機能の支援サービスの活性化（介護支援、家事支援、子育て、学習指導等サービスを含む）</p> <p>○神戸の女性就業率が低い理由が仮に個人的な介護のためだとすれば、介護施設サービスや他の親も地域で看るなど、「介護」の社会化、社会的企業による解決を図ればどうか。</p> <p>(2) 社会的企業など多様な形態の参入</p> <p>○イギリスだけでなくアジア諸国でも、社会的企業の役割は大きくなっている。神戸は震災以降社会的企業が日本で最も厚く、地域の産業経済のエンジンとしての役割を果たすのではないか。</p> <p>○2008年に大学に社会起業学科をつくったが、社会参加や社会貢献を進めて地域づくりを裏方からサポートする社会的企業のプロ集団をつくりたい。</p>

	<p>○社会的企業は、行政・民間が担えない社会課題を解決する事業主体であるが、「業」として成り立って雇用が吸収できるようなパイを持てるようにすることが大切。</p> <p>○社会的企業は、中間労働市場から通常の労働市場へ入っていけない人が、いきがいを含めて働く領域と認識されるが、地域に根ざした神戸固有の働き方が大事になってくる。</p> <p>△いくら良い案でも資金無しでは実行不可能。まずは資金調達。地域住民による協働事業組合の設立や出資参加、技工能力参加、郷土愛の向上が必要。</p>
<p>観光 (審議資料：集 客観光の強化)</p>	<p>(全般)</p> <p>◇市外の人、国内外の人に、神戸に来てみたい、住んでみたいと思われることが非常に大切と思う。住んでいる者にとって良いまちであれば、よそからも来たいまちになる。</p> <p>△神戸は海・山などに囲まれた美しい町だ。産業の造船、ケミカルは現在では中国や韓国に負けてしまい、観光事業等に力を入れて、若い人も仕事のできる町、収益の出ることをしてほしい。</p> <p>(1) オンリーワンの観光資源の活用</p> <p>○「観光」ということをUDの視点からとらえ直すことを柱にしてはどうか。そのことによって宿泊、交通、商店街など産業面でも効果がある。</p> <p>○オンリーワンの神戸をどのようにつくるかについて、デザインの視点を取り入れて欲しい。デザインで心をつかむようにして欲しい。</p> <p>○観光交流都市を目指すにあたり、本当にオンリーワンは何か、質的な整理が必要。</p> <p>○神戸は、欧米人が非常に好む都市景観を持つ。例えば、オンリーワンの強みとして、瀬戸内クルーズの母港がある。</p> <p>○クルーズは、造船業など産業の育成にもつながる。客船にも目を向けておくべき。</p> <p>○ルミナリエ、ジャズストリートは、神戸の下地があってこそそのイベント。他都市でやっても上手くいかなかった。継続して強化することが必要。</p> <p>○ルミナリエも、人出は多いものの買い物はほとんどなく、支出に見合う経済効果はないと思う。3年ぐらいでやめてもよかったのではないか。</p> <p>○〈安・近・短〉は、すべての人が求めている基本で、花鳥園、科学館を含めた共通の入園券などの発行することの決断も必要。</p> <p>○市民がお金を掛けずに様々なことができることが喜ばれるのではないか。</p> <p>○三宮、新神戸、港など点としては質が高いが、つなぐ部分にデザインを取り入れてはどうか。例えば、スペインのサンチャゴ・カラトラバの橋など。</p> <p>○市民あってこそその文化や観光である。また、洋風的なものだけでなく、須磨、有馬など日本的な歴史もあることを踏まえたものにしてはどうか。</p> <p>△六甲山からの夜景の代えがたい美しさを世界中の人々に知ってもらいたい。</p> <p>△神戸に来なければ体感できないオンリーワンの世界に通用するイベント作り。神戸まつりやピエンナーレの予算はいらない。オリンピック招致など夢のある施策が必要。</p> <p>(2) 着地型観光資源の国内外への発信</p> <p>○新長田のリアル鉄人28号、三国志の石造などは、他都市から羨まれる観光資源。</p> <p>○ジャズ博物館をハーバーに作るという話もある。ラジオ関西には、ルイ・アームストロングの輸入版(国会図書館にもない)といったコンテンツもある。</p> <p>○観光資源の受け皿が必要。長期体験型の観光に対応する受け皿やホームステイのシステムを作っておくべき。</p> <p>○知的レベルが高い退職後の方が多く存在する。この人たちをホームステイの受け皿にしてはどうか。両方にメリットがある上、交流や観光に返ってくる。</p> <p>○国の制度になるかもしれないが、オーストラリアのように若い人のワーキングホリデーのような仕組みがあれば、長期滞在がしやすくなる。</p> <p>○外国人観光客のプラットフォームというか、受け皿が必要ではないか。欧米で良くある「i」というマークの付いたものが必要ではないか。</p> <p>△神戸の再生は観光にある、新しい観光を考えるべきではないか。若者と高齢者が集う都</p>

	<p>市に再生できないものか。都市とジャズ＝音楽をミックスするののも一つの手段。 △他府県からの修学旅行生が「さすが神戸みやげ！」とみんなが思うようなおみやげが神戸にない。若者にステキな物を持ち帰ってもらいたい。</p> <p>(3) 神戸の魅力の発信</p> <p>○ICT を活用した観光情報の発信が、神戸は弱い。沖縄、静岡、北海道は、中国や韓国の人気サイトにヒットするように、非常に気を使っている。</p> <p>○観光客の情報検索、予約を入れるのもインターネット経由。神戸に来訪する人の気持ちになって情報発信（HP を作成）を。</p> <p>○神戸空港開設時にも提案したが、神戸観光のポータルサイトを空港のページなど良くヒットするページに設けてはどうか。</p> <p>○地元の方が神戸の魅力を発信することが重要で、150 万人も市民がいるのだから、小さな発信でもかなりのことができる。</p> <p>○市は、市内に対して情報発信が下手。市民のなかにも、個人で国際交流をしている人が多い。この人達の力を活用することで、国際交流も促進する。</p> <p>○ミシュランのガイドブックには、京都・奈良は3星で、大阪は2星、神戸は1星となっていた。</p> <p>△他都市のようにもっと神戸のPRを上手にする方法を考えればと思う。高松のたった1玉100円の「うどん」を食べに何千円も掛けて出かける人達が多いのは魅力があるから。</p> <p>△京都、大阪と較べてタクシー運転手のマナーが悪い。来ていただいた方々に良い印象を持っていただき、何度も訪れてみたい街に成長することが課題。</p> <p>(4) 滞在型観光の推進</p> <p>○大型コンベンションセンターを集客の柱にしてはどうか。</p> <p>○大規模な学会をしようとしても、横浜・京都しかない。京都は老朽化している。</p> <p>○神戸に学会で来ていただいて、新幹線で古都京都に行っていただいても、近畿圏で潤う方が良い。</p> <p>○学会を中心としたコンベンションや医療のメディカルツーリズムを集客の柱にし、記載のレベルを上げるべき。</p> <p>○医療産業はアドバンテージがあるが、コンベンションは弱くなっている。メリハリ優先度をつけ、絞っていかないと神戸市の計画とならない。</p> <p>○京都・大阪と観光でつながる奈良には資源があるが滞在はほとんどない。しかし、神戸なら滞在して京都・奈良にいける。</p> <p>○観光交流でハブの考え方を採用する。神戸で困りこむ必要はない。神戸から瀬戸内を観光する。神戸から京都に行くことで良いではないか。</p> <p>○京都の観光を審議する会議の議事録を見てみると、「外国人の誘客には、街並みと温泉と水が有効で、古都の街並みがあるが温泉と水がない、どこかと組めば。」とあった。</p> <p>○一方、神戸には「温泉」と「水」がある。京都と組むこと、有馬温泉は近いということアピールし、外国人を引き込むべきである。</p> <p>○かつては神戸に観光に来る欧米人が多かったが、魅力ある観光スポットが少なく、せっかく観光船で来ても、そのまま京都や奈良、姫路などに行ってしまふ。</p> <p>□観光都市については大阪に任せればいい。神戸は観光で宿泊ではなく、周辺の人が遊びに来るおしゃれな街と位置づけるべき。六本木や銀座を目指すべきである。</p> <p>△姫路城、明石海峡大橋、鳴戸の渦潮、神戸の夜景を組み合わせて、一泊して京都へつなげるルートをPRしてはどうだろう。海外からのツアーや修学旅行生等をターゲットに。</p> <p>△海外から見た神戸は、日本の歴史を感じない町で魅力ある町ではない。国内特に近隣より人に来てもらうため、高速代等を市で負担し、気軽に来てもらう環境作りはどうか。</p>
<p>工業 （審議資料：技術の向上によ</p>	<p>(1) 新たな成長分野で活躍する企業の集積と展開</p> <p>○神戸は重厚長大産業の下請けが大半であり、中小・零細製造業は、図面から忠実に造り上げる力、技術力は世界に通用するが創造性という点で弱い面がある。</p>

<p>る世界貢献)</p>	<p>○原子力、造船など新技術については、日本は得意分野である。今、危惧することは、親会社である大企業が事業編成替えなどで海外へ出て行くことである。</p> <p>○また、価格競争の激化も危惧することである。例えば、自社は家電を扱っているが製品価格は例えば3年で3分の1となっている。</p> <p>○消費される近くで造るといふ、工業も地産地消になってきている。価格競争では、中国がプライスリーダーとなっているので大変な企業努力が必要。技術があっても客が低価格志向なのが課題である。</p> <p>○新しい環境産業や環境に寄与する技術を地域特性に合わせ、活かしていくとともに、自然の保全などと共存できる計画にすることが必要である。</p> <p>○大型客船などが停泊中に陸電という形で電気をとることができれば、CO2排出抑制に貢献できる。神戸が先鞭をつけられれば、大いにPRできるのでは。</p> <p>○世界中で行われているさまざまな試みを「だれの負担で」「どの地域で」具体化するかが重要。コミュニティビジネスのような仕組みが提案されつつある。ぜひ取り上げてほしい。</p> <p>△他の都市と横並びでない政策で街を発展させてほしい。環境ビジネス（雑草や紙から作るバイオ燃料や太陽光発電・電気自動車など）にもっと積極的に参入してほしい。</p> <p>△医療に限らず「バイオ・化学」産業まで領域を広げて企業を集積するべき。医療関係の企業のみでは母数に限りがある。食品・農業・化学品業界となると産業のパイが非常に大きくなると思う。</p> <p>△海事クラスターから未来産業が生れる。海運特区を作って金融保険物流拠点とする。海事派生産業は今後10年で6兆円（環境）となる。アジアの発展に取り残されないよう官は頑張れ。</p> <p>(2) 産学官連携による優れたものづくり技術開発の支援</p> <p>○震災後、倒産件数は全国比較では少ない。倒産の大半は後継者がいなからである。</p> <p>○もう一つは少子化でものづくり人材の不足である。科学技術高校の卒業生400人のうち大学進学が多く、100名程度しか就職しない。技能者・技術者人材育成が必要である。</p> <p>□販路開拓や技術連携などにつながる異業種との場をもっと増やして欲しい。ネットワークを広げたい。</p> <p>□技術者特有の最新「技術言語」を「翻訳」できる人材が求められている。</p> <p>□日本の技術は負けていない。方向性をしっかりと示せてあげれば勝てる企業は日本に多い。持てる技術をどのように活かしていくか、何に活用していくかプランニング能力、提案力を高めてあげることが必要。</p> <p>□大企業の内部の情報（必要なニーズなどの情報）を持ち、かつ、中小企業の外部の情報も知っているゲートキーパーがいるとネットワークは形成されやすい。大企業の企画開発拠点と、技術をもつ中小企業とのつながりは、人と人のネットワークによるところが大きい。そのためマッチングの場などがあれば良い。</p> <p>△中小企業の高い技術力にも目を向けてほしい。</p> <p>△神戸には日本の産業を支えた世界トップレベルの技術（造船、鉄道）がある。環境技術でもリードする技術発信と、デザイン都市・神戸の取組を結びつけていくことが重要。</p> <p>△技術を生じた大企業をもっと発展させ、国際都市神戸にふさわしい港町神戸として、商業を発展させ、消費社会の楽しい町となることを望む。そのためには技術的な学校の建設も必要。</p> <p>(3) 新産業創造に向けての起業家などへの支援</p> <p>○市内研究機関には防災関連も多い。防災という観点で神戸の特色だせるものないかと思う。産業として防災企業など誘致して減災を目指すなどどうか。</p>
---------------	---

	<p>(4) ものづくり企業の販路開拓支援</p> <p>○神戸の機械金属などではシェアが高いことはあまり知られていない一方で、東大阪のイメージの方が強い。ブランドイメージが高くなると後継者や担い手が増えてくるのではないか。</p>
<p>みなと (審議資料：先進港神戸と神戸空港の機能強化)</p>	<p>(1) 国際水準の質の高い港湾機能を備えたみなとの形成</p> <p>○神戸の経済を支える港湾の役割は大きい。将来も中核的な産業構造として神戸港を守っていくという方針を掲げるかどうかで、神戸港の空間をどうするか議論は変わってくる。</p> <p>○将来の神戸をめざしてどうするかという視点が必要。神戸の産業構造の中で、医療産業やアニメーションなどもあるだろうがやはり神戸は「港」が強みである。(植村委員)</p> <p>○貨物、旅客、造船、海運、海事従事者養成など単なる港でない海事クラスターとする意識が必要。市内総生産、雇用を増やすため臨海部についても力を入れていただきたい。</p> <p>○瀬戸内クルーズも、造船業や集客観光都市としての魅力として、神戸が母港となることで広域集客のコアな港となり、ミニクラスターとなる。</p> <p>○スーパー中枢港湾の機能の効率化として、更なるコンテナターミナルの集約を図る必要がある。また、内航フィーダーの利便性の増大を考え、コンテナ貨物の集約を図る必要がある。</p> <p>○神戸港は神戸経済の中心ではあるが、スーパー中枢港は全国で2つでいいと現政権はいつている。今後も西日本のハブ港として莫大なお金を使って、今、整備する必要があるのか疑問。</p> <p>○港と街や市民が遠い。通勤の船便はペイしないので成り立たないかもしれないが、市民が船を日常に使う風景があってこそ、港と市民が近く、港町に住んでいる実感がわくのではないか。</p> <p>△神戸の基盤は港であり、港の整備発展にもう少し力を注ぐべきではないか。</p> <p>△神戸港に関連する経済、産業の発展の重要性と、それにもなう雇用促進が望まれる。ひいては神戸市の行政収支が良くなり、住みやすい神戸をめざしてほしい。</p> <p>(2) 多様な物流ニーズに対応できるみなとの形成</p> <p>○ポートセールスだけでなくビジネス交渉を市も支援し推進すべき。神戸は具体的なビジネスの話がでないからおもしろくない、という声も聞く。神戸市でも、極東ロシアなどに着目し、ビジネスにつながる交渉に参画してもらいたい。</p> <p>△阪神大震災後はどうも寂れたように思える。船の出入港費を下げるとか貨物の集配率を迅速にするなど、いろいろと考えられる手を打って神戸港を昔のように賑やかな港にしてほしい。</p> <p>△神戸港の貨物取扱量ランキングを見ると、その地位低下に驚く。震災で他港にシフトしたものが戻らないのは、設備・コスト・規制等の魅力が欠けているのではないか。</p> <p>(3) 臨海産業エリアの用地の有効活用</p> <p>△将来の人口集積のためにも、社会資本の整備を補完しながら、現存のポートアイランド・六甲アイランドの空地に企業を誘致するため一層の努力が必要。</p> <p>△空港を作ったのならもっと積極的に活かす工夫を。まわりの空地はいつまでそのままにするのか。</p> <p>(4) 利用者ニーズに対応できる神戸空港の機能充実</p> <p>○ベイシャトルの話よりは、長期的な視点から関西3空港の一体運用にも触れる必要があるのでは。</p> <p>○神戸空港と関空との連携、例えば、関空発着便に神戸空港の国内便の時間を合わせるとか考慮することが活用のポイントである。</p> <p>○空港は旅客だけでは成り立たず、貨物が重要。空港や六甲アイランドなどに大きな流通センターをつくるべき。元気がなくなっている中央卸売市場の活性化にもつながる。</p>

	<p>○神戸空港の搭乗率7割は、小型中型機であり、大型機だと7割は超えない。今年度3億円赤字の予算を組んでおり現実を見て見直すべき。</p> <p>○早朝夜間の増便や、医療ツーリズムという考えで、中東、ロシア、韓国、中国などからビジネスジェットを利用した患者を受け入れて医療産業に活用すること。</p> <p>○航空会社は赤字だが、ライオンエアは黒字。ローコストキャリアはつぶれるところがあるが、運輸行政の規制もオープンスカイになってくれればかわってくるだろう。</p> <p>○先端医療の患者のための空港のバリアフリー強化など新幹線より空港を使いたいと思わせるサービスをつくれればよい。</p> <p>○関空会社と神戸空港を会社一体化して運営すべき。関空の第3滑走路でよい。</p> <p>○空港と港はセットで考えれば良い。鮮度の高いもの飛行機、ゆっくりならば船というようにニーズがそれぞれある。</p> <p>□東京とのアクセスが良い。神戸空港はありがたい。また、全国に支店のある会社では、アクセスとして空港は重要だ。</p> <p>△たとえば、神戸空港から関空への乗換はバイシャトルを無料にする（空港内移動手段との考え）。</p> <p>△海上アクセス、バイシャトルの運行中止を提案する。関空・神戸空港ともに減便傾向が続き、将来的にも希望はもてない。代替便（バス）も充実している。</p> <p>△神戸空港から成田、韓国仁川にシャトル便を増発することにより海外に近くなり、大企業が誘致しやすくなる。</p> <p>△グローバル化に備え、抜本的に思い切ったプランを具体化する。神戸空港の滑走路を増設し、ハブ国際空港とする。伊丹空港は廃止する。</p> <p>△神戸空港の位置づけ、活用方法が良くわからない。何の強みにもなっていない。貨物専用空港にして神戸港との相乗効果を狙うとか、何か特徴を打ち出さないと、ただの田舎空港の1つになる。</p>
<p>文化 （審議資料：文化創生都市の推進によるまちづくりや賑わいの創出）</p>	<p>(1) アーティストが集い、活躍するまちづくり</p> <p>○西宮は、芸術文化センターを市民で盛り立てているが、神戸の人は一杯ありすぎて、クール。</p> <p>○源氏物語1000年祭りも、須磨明石の舞台もあるが、京都でのみ盛り上がっている。</p> <p>○開港140周年祭、ピエンナーレも、市民がクールで、もう少し盛り立ててくれればと思う。</p> <p>○文化における行政の役割は何であるか、議論の整理をしていただきたい。</p> <p>○文化については、参画と協働というが、行政は何ができるか、プラットフォームをつくるのか、場をつくるのか役割の議論も必要。最低限、ファシリテイトする役割をはたしていくべき。</p> <p>△神戸在住のイラストレーターが大好きで、若い作家を応援していきたい。神戸の作家が有名になってくれるとうれしい。</p> <p>(2) 芸術・文化を活かした賑わいの創出</p> <p>○文化創生都市プランを作っていく過程で、市民の文化と文化を活かした都市戦略の両輪にしていった。この両輪の構造はしっかりしていると思うので、次の計画にも活用できると思う。</p> <p>○更に、文化と観光や文化と産業の視点が盛り込まれるべき。特に文化は観光の下支えになっているし、ストックだと思う。</p> <p>○観光も文化も不易流行で行うべきで、絶えず変化して新しいものを取り入れる部分と変化しないものを関連しながら実施していくべき。</p> <p>○文化創生都市に伴う取り組みも4次の計画から異なったところ。</p> <p>○経済同友会の「神戸らしさ」と市民性についての提言では、おしゃれで文化的、山と海とがある。神戸の文化やイメージが観光の基にあるのなら、文化を高めることが観光などにつながる。</p> <p>△ジャズや絵、アート、デザイン等、芸術面が他の都市に比べて盛んでオシャレである。</p>

	<p>これをもっとアピールし、芸術家も観光客も神戸に集まるようにイベントを行うべき。 △芸術で都市の成熟度を更に上げる。国公立の高校、大学、大学院を創設し、青少年から定年退職者等の熟年層も広く受け入れ、戦略としての芸術による経済振興まで考える。</p> <p>(3) 地域の特性を活かしたまちのブランドの創造・発信</p> <p>○経済産業省・文部科学省が、全国の5箇所を、クラスターとして認定し、神戸と大阪がバイオメディカルクラスターに認定されている。学術を通じた交流にも注力すべき。</p> <p>○文化は、ソフトウェアやハードウェアの下にあるヒューマンウェアで成り立っている。</p> <p>○PRしなくても日本中が知っている5つの地名がある。須磨、六甲山、灘、有馬、それに兵庫である。開港以来のエキゾチックな文化だけでなく、これらも文化のインフラとして活かすべき。</p> <p>○市街地の文化は意識されているが、西北神の広大な地域の文化について無視すべきではない。お祭り、慣習を細かくリストアップし、データがあれば、活用できる。</p> <p>○昭和47年から55年に教育委員会が、神戸市内にある江戸時代からの民俗芸能を調査したことがある。稀有で基調な調査が存在している。</p> <p>○文化の発信の源として、神戸には出版社が数えるほどしかない。インターネットは確かに大きくなっているが、紙媒体は依然大きい。</p> <p>○B級グルメやサブカルチャーも大切にすべきだ。長田のそばめしやヘアデザイナーなど産業や生活に結びついた文化も重要。子ども目線、大人目線、産業目線の文化もあってよい。</p> <p>○イギリスでは子どもをベビーシッターに預け、夫妻で夜のパブに出かける。スタイリッシュでかっこいい文化である。ある種の文化は社会インフラとセットでないと育たない。</p> <p>○民俗文化が多国籍、多様性のある神戸にはあり、関帝廟、南京町、長田のマダンについても、ご存知ない方も多い。民俗に根付いたものは、観光にも活用できる。</p> <p>○市民の生活文化的なものを高めることが重要で、神戸では喫茶店がどこもおしゃれであるというような、ソフトのインフラに腐心していただいたら良い。</p> <p>○神戸の文化はライフスタイルそのものにリンクしている。</p> <p>○函館は魅力あるまち1位で夜景の日をつくるなど一体感がある。まちづくりに一体感を取り入れていただきたい。また神戸は国際宗教都市ともいえ、国際性を取り入れていただきたい。</p> <p>□医療系企業、ファッション、パン・洋菓子がおいしいというのも神戸の強み。</p> <p>△世界に向けて通用する神戸発のブランドを育てていく必要がある。特に靴等の皮製品では生み出せるはず。市は集積地の整備、財政的な支援とデザイナーを集められるような仕組みを作るべき。</p> <p>△長田区にも海や歴史もある。人なつっこい人々が住んでいる。(東京と似た)三宮中心の都市発想より、兵庫・長田・須磨といった「人間的良さ」が残る地域を含めたプランを。</p>
<p>「知の集積」 (審議資料： 「知の集積」による新たな価値の創造)</p>	<p>(全般)</p> <p>○ポートアイランドは、一部の人だけでなく大衆を引き付ける魅力あるまちづくりの仕掛け方策が必要で、もっと市民に認知をしてもらうことで活気を出すべき。</p> <p>○理化学研究所は国事業であり市民理解をどう得るかが重要である。国事業を自治体事業と一緒にすることであり、市民や患者の団体とも一緒に取り組んでいる。</p> <p>○島根に市が積極的に集積を図ってきたオープンソースのコミュニティがある。神戸でもCOPRIで取り組みを始めている。それを核に、お金のかからない知の集積を図っていききたい。</p> <p>○農業分野では遺伝子技術向上のため何十年も研究に取り組んできたが、社会が受け入れない。障壁を埋めるには科学者だけでなく、農工、医工連携や社会学者との連携などが無いと難しい。</p> <p>○介護・医療など3次産業に力を入れない限り雇用の吸収は困難。早めに介護・医療産業を強化すべき。</p> <p>△神戸独自の“知の集積”を実戦・実行に向け進んでほしい。国政も注目する新発想とア</p>

アイデアで行政を動かしてほしい。

(1) 神戸医療産業都市構想の推進

- 医療荒廃を市民も感じている。メディカルイノベーションシステムは、市民の目線からかけ離れているという印象をもつ。
- 医工連携については、医療、介護の現場からのニーズから発せられたものか疑問視されている。産業振興の観点からだけでなく、市民の求めるゴールはなにか検証すべき時である。
- 市民の合意がなければ説明責任は果たせない。
- 関西バイオメディカル構想では、大阪で創薬、神戸は再生医療としていたが、分子イメージングセンターが動き出して創薬をやれるのではという風潮を、市民がどう受け止めているか。
- 新市民病院構想の構想について、市民の救急医療の充足を願う病床数の復活などの願いが削がれている。
- 健康を楽しむまちづくり構想は、本当に神戸の地場産業の発展に寄与するのであれば良いが、個人の健康に行政が踏み込みには、個人情報保護の観点の解決が必要です。
- 学会を中心としたコンベンションや医療のメディカルツーリズムを集客の柱にし、記載のレベルを上げるべき。
- 医療産業都市構想は、世界でも初めてに近い計画だが、市内への波及はこれからになっている。メディカルツーリズムはシンガポール、タイ、韓国に先を越されてしまった。
- メディカルツーリズムでは、言語、風習、付き添いの手配、ビジネスジェットなど様々な要素が必要になる。中東の産油国を対象に話があった。
- これからは医療産業都市構想とスーパーコンピュータである。医療機器は多種で幅がある。ターゲットを絞った企業誘致をすべき。また、スーパーコンピュータが使える方策が見えてこない。
- 労働者に多く給料を払える企業がどれだけ来てくれるかが重要、スパコン、医療産業都市は、イノベーションの核をここにおいているだけで、新しい企業がどれだけくるか。
- 一番重要なのは神戸市民が良い医療を受けれることであり、医療評価で患者満足度を上げること。市民にとっては高度な医療が神戸に集中しているもメリットである。
- 患者満足度を高めるサービスを提供し、実現するための仕組みとして医師会とともに話し合っていくながら医療産業都市構想を進めることが必要。
- 医療産業都市構想の市民への成果の還元の1つとして地域医療との連携に力を入れてはどうか。
- 医療産業都市構想を核に保健、福祉、介護までの広がりを持たせた上で、高度医療と通常医療の住み分けをはっきりと行う。市民に高度な医療サービスを何が提供できるかという情報を提供すれば、地域医療で十分な疾病と、より高度な医療を必要とする疾病に分離できる。そうすれば、高度な医療中心の中央市民病院の負担を軽減し、先端的な医療研究に集中でき、さらに地域医療の裾野も広がるだろう。
- 医療産業は国がすべきこと、国費含め1300億円をつぎ込んできたが、今後も市費を入れ続けなければならないというのはどうか。
- 中央市民病院は病床数減になり、救急者の受け入れ拒否も97件もあった。医療産業都市構想は立ち止まって検討すべき。
- 市民への医療提供と国際的な医療ビジネス拠点としての役割の両方があり、世界でも多くない地域経済のモデル都市を目指した展開を期待したい。
- 産業のみでなく人材や住居、弁護士などの社会的インフラを入れることで市民の手に返るのでないだろうが、産業の拠点化を考えるとよい。
- ◇医療産業都市構想で生まれる雇用のほとんどは専門的業務であって、もっと一般の人が安心して働ける雇用の場が必要ではないか。
- ◇医療産業都市構想はハードに特化している印象があるが、福祉サービスなどソフトも含めた全体の活性化を図ってほしい。

	<p>△医療産業都市構想を進めたら如何か。あれもこれもでは中途半端になり、ひとつ世界に通用することに力をいれるのがいい。</p> <p>△神戸は医療、福祉で他都市よりも優れている。ポートアイランドなど、医療関係のベンチャー企業を誘致しているが、もっと誘致に力を入れれば、新たな雇用も生まれ税収も増える。</p> <p>△知の集積でポーアイに拠点を置くのは、一見合理的ではあるが、震災の時のように機能しないのでは、宝の持ち腐れと思われるがどうか。場所に問題アリだ。</p> <p>(2) 次世代スーパーコンピュータの利活用</p> <p>○次世代スーパーコンピュータに関して、地元中小企業がどう活用できるかが見えてこない。技術と経営の両方を理解している人材（MOT人材）の育成にも力を入れてほしい。</p> <p>○次世代スーパーコンピュータがすぐに産業化に資するというのは早急。オープンソース化は難しいかもしれない。</p> <p>△次世代スーパーコンピュータの整備や支援などを行い、「知の集積」を進め、新たなまちづくりに高度な技術と教育とその基盤を神戸に集積することが神戸づくりに大きく寄与にする。</p> <p>△次世代スーパーコンピュータの整備支援の今後にやや不安を抱く。神戸の取組はよいが、受ける世界等の現状が多少気になる…そうならない未来を祈念するばかり。</p> <p>(3) 大学など知の活用</p> <p>○地域政策の関連から、様々な分野との連携を行政としてどうマネジメントできるか、教育、産学連携が重要で、必然的に雇用につながってくる。</p> <p>○藍那地区では大学と地域が協働で酒づくりをして、規制がある中次のステージを生み出すチャレンジしている。ビジネスマッチングの仕組みにすべて大学が関わっている。</p> <p>◇昔は神戸に外資系企業が多くあった。また、貿易業におけるファミリーカンパニーもあった。企業誘致で外資系企業は増えているが、昔に比べると少なくなっており、残念である。国際学校卒はバイリンガルなのに働く場が少ないことがもったいない。</p> <p>△学識経験者をもっと活用するべき。例えば神戸大学の経済、経営分野で。経済の活性、ビジョンについても十二分に活用すべきだ。</p> <p>△神戸には世界に冠たる知的技術、産業が有るか。産学協同もしくは知的リーダーを招いてでも、3年後にはこの技術（バイオ、水、ロボット等）でリーダーになるという方向が必要。</p> <p>△海外留学生の発信基地として積極的な支援を行い、市民及び住民に理解を得て国際化を図る。</p>
<p>デザイン① （審議資料：「デザイン都市・神戸」にふさわしい魅力ある景観の形成）</p>	<p>(全般)</p> <p>△他府県からの観光客や華やかさばかり良くしようとせず、内部（市場の衰退、駐輪場、商店街のロータリー上の意味の無い公園や歩道の悪さetc）をきちんとしてほしい。</p> <p>(1) 地域特性を活かした神戸らしい景観の形成</p> <p>○神戸は外国人好みの地形自然が綺麗な街。欧米人が憧れるギリシャ・ソレントのような雰囲気があり、強みとして活用すべき。一方三宮の街には、統一感がない。</p> <p>○夜間景観をクローズアップしてほしい。イベント的ではなく、固定した形での夜間景観の創出により神戸らしい景観をめざすべきではないか。</p> <p>○景観は、集客観光に資する必要があるという観点を入れておくべき。</p> <p>□神戸で期待以上だったのは、自然と共生している街であること。ロサンゼルスやサンフランシスコにも劣らず超一流である。また職住接近していることも良い。</p> <p>△山・海と開放的で穏やかな環境に恵まれた地域性の中で神戸は発展してきた。これを生かした市民性を更に養えたらと思う。</p> <p>△デザインすることに重きを置いたため、神戸の伝統的な顔を失い、美しくはあるが技巧的で個性の埋没した都市の顔になっている気がする。</p>

	<p>△デザイン都市・神戸として、より世界の中で魅力ある町とするには、建築の高さを制限し、六甲山系の陵線が見えるようにするだけでなく、地域により色合い等も規制をすること。</p> <p>(2) 都心域をはじめとした海・まち・山を眺められる眺望景観の保全・育成 ○現在の眺望景観の基準はポーアイしおさい公園だと思うが、メリケンパークやハーバーランドのように人が集まる場所からの視点が大事ではないか。 △最近、神戸の街に高層ビルがあちらこちらに建ち、海あり山ありの美しいまちを壊しているように思う。これ以上高層は認めないでほしい。</p> <p>(3) 景観形成を推進するためのしくみの充実 ○須磨海岸にガラスのかけらや花火等のごみが多くたいへん汚い。観光地がこれだけごみで荒れていると観光客の印象が非常に悪くなる。 ○オンリーワンの神戸をどのようにつくるかについて、デザインの視点を取り入れて欲しい。デザインで心をつかむようにして欲しい。 ○三宮、新神戸、港などつなぐ部分にデザインを取り入れてはどうか。例えば、スペインのサンチャゴ・カラトラバのデザインした橋は非常に繊細で先端的である。 ○夢のような話だが、例えばハーブ園⇒摩耶ロープウェー 星の駅⇒六甲山上と横につなぐロープウェーがあると面白いと思う。 △日本一美しいこの都市を今以上に国の内外にアピールする必要がある。都市の景観や自然を破壊する建物は厳しく排除するべき。神戸市全体のランドデザインが必要。 △街並みを壊さないような看板のデザイン規制があればいい。</p>
<p>デザイン② (審議資料 デザインを活かした「ものづくり」の支援)</p>	<p>(全般) ○デザインと科学の連携や横のつなぎ合わせも課題である。対象と目的とプログラムをださないと思いつきで終わってしまう。</p> <p>(1) デザインを重視した中小企業の競争力強化への支援</p> <p>(2) アパレル、シューズなどのデザイナーの人材発掘と国内外での情報発信の支援 ○デザイナーの考案したものを、どういう形で保護し、報酬の面でフォローしていくのか。「デザイン都市・神戸」を進める上で、法的な整備や保護の仕組みの整備が必要。 ○デザインを技術利用する場合の基本は、それを使える仕組みが大事。デザインを大衆化していく仕組みが大事。デザイナーや伝統をまちとして蓄積している、それが重要なポイントである。 ○日常の中で、神戸の魅力・特長をどう組み合わせるかで発信力を持つかである。それらを統合してそれをブランド、デザインというのが発信できればよいと思う。 ○デザインを活かしたものづくり、ブランドというのは一種の価値観であると思うが、それが活かされていることが大事であると思う。</p> <p>(3) 洋菓子など食に関する産業の人材育成と国内外での情報発信の支援 ○関経連の会議において、ブランドは地域の価値観で形成されるという話があった。ブランドは、産業・魅力を高めるソフトのインフラである。 ○相対的にケーキのシェアは高いと思う。せっかく競争力のある間にシェアをキープできる風土が大事であるということ。今、質を高めないと新興勢力に負けてしまう。 ○科学研究もデザインも基本は個人に依存するところが大きい。個人を育てても他所に行ってしまう。育てるだけでなく、神戸でどう使うかが大事。研修施設もどう使うか。 ○神戸の強みは大衆の力であり、商品を大衆好みにしていく力であり、大衆の力の使い方である。</p> <p>(4) 機械金属産業におけるプロダクトデザインへの支援</p>

(3)「まちづくり」分野

<p>全体像 (審議資料：めざす都市空間の全体像)</p>	<p>○社会情勢をふまえると、今回はディフェンスの計画を作ることだと思う。少し踏み込んで、縮退など守れないところも出てくることに触れ、サポートの記載も重要。 ○郊外の縮退の問題は、部分的にでも整理して方針を考えておくべき。近い将来、高齢化が進むと、公共負担が非常に大きくなるエリアが出てくる。 △神戸は京都などに比べて、都市開発が非常に下手なイメージがある。長期的な視野で“こんな街にしたい”とイメージができていないことが要因。後先を考えない派手な施設ばかりが目立つ。 △神戸のいいところは「コンパクトシティ」。安全で気持ちのいい道路、安い交通手段が確立できれば、たいていのことは解決するはず。</p>
<p>土地利用の誘導 (審議資料：秩序ある土地利用の誘導)</p>	<p>(1) まちのゾーン ○小売市場や商店街の空店舗が増えて、中央市場でさえ衰退している。思い切って地域の市場の都市計画的手法による集約が必要でないか。 ○都心域での高層マンションの問題は、喫緊の課題である。 ○ウォーターフロントのあり方として、産業地域をどう位置づけるか。産業用地は必要な用地であり、暮らしと特徴的な水辺をどのように考えていくかが課題。 ○医療産業都市の育成やHAT神戸の国際交流機能などについて、機能で位置づけているというイメージが薄い。 ○長田の活性化策が新長田に偏り過ぎ、他が寂れているのではないか。また道路の幅を広げ過ぎ、かえって不便になっている。地域に合わせた開発を行うべき。 ○海岸線は赤字、ホームスタジアムもランニング経費はかさむなど、インナー活性化のための市の施策はあまりうまくいっているとは思えない。 ○公営住宅の建て替え跡地には、お年寄りが散策できる公園や、若者の集まる野外公会堂など、人が集まる仕掛けが必要。 □浜地には働き手、平地には老人や子育て世帯、山地には若者や学生が住みやすいようにと分けて考えるべきではないか。 □このまま高層マンションがどんどん建てば、山の手の高齢者が下に降りてきて、将来的に山の手が幽霊屋敷だらけになってしまう。南北の計画も良く見る必要がある。 △準工業地域にも一般住民が快適に生活できる生活環境の確保と監視の目を。企業のモラル向上と理解を求む。</p> <p>(2) 田園のゾーン</p> <p>(3) みどりのゾーン</p>
<p>交通 (審議資料：海・空・陸の総合的な交通環境の形成)</p>	<p>(1) 交流を促進し、人にやさしい交通環境の形成 ア 神戸空港 ○神戸空港では、関空との連携、例えば、関空発着便に神戸空港の国内便の時間を合わせることを検討するなどが活用のポイントである。 ○ベイシャトルの話よりは、長期的な視点から関西3空港の一体運用にも触れる必要があるのでは。 ○空港は貨物ももっと考えればよい。日本全国の特産品を神戸に集めてはどうか。 ○空港は旅客だけでは成り立たず、貨物が重要。空港や六甲アイランドなどに大きな流通センターをつくるべき。中央卸売市場の活性化にもつながる。 ○航空会社は赤字だが、ライオンエアー(※)は黒字。ローコストキャリアはつぶれるところがあるが、運輸行政の規制は多いがオープンスカイになってくればかわってくるだろう。 △グローバル化に備え、思い切ったプランを具体化する。JR新神戸～神戸空港～関西空港間に高速地下道路と鉄道を建設する。</p>

イ 海上交通

- 都市の装置として「港」を書き込んで欲しい。海事クラスターとする意識が必要。市内総生産、雇用を増やすため臨海部についても力を入れていただきたい。
- 瀬戸内クルーズも、造船業や集客観光都市としての魅力として、神戸が母港となることで広域集客のコアな港となり、ミニクラスターとなるのでお願いしたい。

ウ 陸上交通

- 交通需要のマネジメントなど、ソフト的な対策についてももう少し記述すべき。また、料金のマネジメントについても非常に重要な項目。
- 広域交通ネットワークの形成は非常に大事な取り組みであるが、財政が大変な状況でほとんど実現が不可能だと思う。都市計画道路もプライオリティの検討・実施が必要。
- 交通については、既存の公共交通の有効利用とあるが、既存交通インフラの利用とそのメンテナンスが非常に大事。
- 道路空間については、既存ストックを活用するという観点から、もっとワイズユースすることで、可能性を持った空間になる。風の道や蓄熱をしない道など。
- 東西の交通は充実しているが、田園地域など六甲山を越えた部分を含め南北の交通ネットワークが薄い。クリチバ市のバスをうまく使った交通システムを考えられないか。
- 例えば元町から三宮までについては、車の乗り入れを規制し、歩行者天国のようにしてもよいのでは。
- 南北のアクセスが弱い。ウォーターフロントを活かすために、新しい電気系の乗り物や、ハーバーランドのあたりへLRTを乗り入れてつないでいってはどうか。
- 「人」の移動という視点で見ると、複数の人が毎日通院するより医者が往診すればCO2排出が半分ですむ。ハード面を備えなくても今あるもので対応できるものは多い。
- 超高齢化社会への対応は公共交通だけではない。パーソナルな移動手段も含めた記載が必要では。
- 歩いて暮らせるまちの交通の具体的なイメージがわからない。どんなまちになるのか、市民が何をしないといけないのかが分からない。
- 街中の商店街がなくなることで、歩いて暮らせるまちが、暮らせない町に変わることも理解すべき。交通の問題でもあるが、まちづくりの問題でもある。
- 他の地域にいくと、結構ミニバスを走らせているが、神戸は少ない気がする。
- メガリージョンにより京阪神の交通網を整備して利便性を高めることにより、他地域へのストロー効果を防ぐことができる。
- △無駄な都市計画道路の建設を直ちに中止して欲しい。このような財政難の時代に、目的不明の道路をつくる余裕はないはず。
- △湾岸道路が未完成ですので、今後、至急に作って欲しい。
- △国道2号線の須磨～明石間の4車線化を早急に進めて欲しい。神戸に来て40年たつが、未だに昔のままである。
- △有馬街道の整備又は代替の生活道路の整備を行わなければ災害時や緊急時のアクセスが不安である。
- △鈴蘭台の駅前には人・バス・車でごちゃごちゃしているし、歩道がないところもある。歩道があっても狭いなど暮らしにくいので、道路整備をしてほしい。
- △塩屋地区は老人が非常に歩きにくい。また、車道も狭くて危険な箇所が多々あり、目の届きにくい場所が何ヶ所かある。早く改善されることを願っている。
- △兵庫・長田区等に於けるコミュニティバスの交通手段の検討。
- △山手幹線沿いのJR・阪急電車の駅の間で自宅がある。車の運転ができる間はいいが、東西に走るバス路線があれば、地球環境にもお年寄りにも安心な神戸のまちづくりが可能になる。
- △谷上から岡場の間は市バスの交通がない。代替の神姫バスの停留所は人でいっぱい満員であり、対策を。

	<p>△手続の複雑なものは西区役所まで行かなければならず、バスと地下鉄を乗り継がないといけないので費用と時間がとてもかかる。岩岡町からの直通バスを考えてほしい。</p> <p>△ＪＲ新神戸・神戸空港との市内アクセスを拡充できないか。未だに新大阪・伊丹のアクセスに見劣りし、地元市民だけでなく観光アクセスも大阪に偏りがちだ。</p> <p>△車中心社会から、ヨーロッパが導入している路面電車などが走る、人にやさしい町にしてほしい。</p> <p>△都心部への車の乗り入れを規制すべき。</p> <p>△自転車でもどこへでも行けるように道を整備するようにすれば、公害もなく、CO₂も出さない。体力増強、レジャーにもなると思う。</p> <p>△市営地下鉄はＪＲや私鉄と接続しておらず、乗り換えに手間がかかる。谷上駅のように乗り換えをスムーズにしてもらいたい。</p> <p>△交通の便が西神より先に地下鉄もなくこの為に神戸も開拓されず、さびれていく一方だと思う。</p> <p>△阪急電鉄と市営地下鉄の相互直通運転を進められたい。阪神なんば線の効果でもわかるように他都市（大阪、奈良）からの集客に寄与できる。</p> <p>△神戸電鉄に対して補助を実施し三田線の複線化と高速化の早期実現を望む。それにより低炭素社会を実現しながら高齢者も安全・快適に外出できるようになる。</p> <p>△鉄道他公共交通網は東西にばかり通っている。折角の和田岬線を補強して南は神戸空港から北は兵庫県北部の日本海岸へ容易に交通できるようにしたらどうか。</p> <p>△垂水区下畑町のあたりに電車が走るようにしてほしい。</p> <p>△地下鉄海岸線の延長工事を進めてほしい。H A T神戸～東灘区方面“海岸線”の特徴を活かし、震災都市であるこの地を元気あふれる街にしてほしい。</p> <p>△ポートアイランドに行く学生の増加や神戸空港の利用者で、朝のポートライナーの混雑、特に三宮駅ホームでは身の危険を感じるほど。早急に対策を考えていただきたい。</p> <p>△北神急行・神戸電鉄が高すぎるので、大幅な値下げを実施してもらいたい。財源は老人パスの廃止が見直し。老人パスは買物・娯楽に使われ、病院通いは少数。</p> <p>(2) 経済を活性化し、環境にやさしい交通環境の形成</p> <p>○思い切った低炭素物流・交通社会の実現にいち早くとりかかるべき。神戸が生き残っていく戦略として何が必要かという視点が必要。</p> <p>○港でのCO₂排出量の制限や、燃料への環境税の影響など世界の流れをふまえた上で、これからの神戸港やその周辺道路のあり方について考えておくべき。</p> <p>○空港は旅客だけでは成り立たず、貨物が重要。空港や六甲アイランドなどに大きな流通センターをつくるべき。中央卸売市場の活性化にもつながる。</p> <p>△低公害で人にやさしいL R T（新型路面電車）が欧米で盛んに導入され、人と環境にやさしい都市交通機関として整備されている。神戸市でも早急に導入すべき。</p>
<p>地域に応じたまちづくり （審議資料：地域が主体的に取り組み地域環境をつくる）</p>	<p>(全般)</p> <p>○ここの全体のタイトルが地域主体となっており、エリアマネジメントが根付いていることを前提に、取り組みの方向性を記載したほうが良いのでは。</p> <p>○めざす将来の姿には、何のためにという目的の部分が書かれておらず、方法論が記載されている。取り組みの背景を記載しておいたほうがよい。</p> <p>○むしろしくみを書く書き方だと思う。課題はこれまでのしくみを検証した結果であるべきだが、書き方には研究を要する。</p> <p>○めざす将来の姿では、○○を通じて、という方法論が強調された感じがする。記載方法に工夫が必要では。</p> <p>○団塊の世代の方が、地域のために活躍するのは重要だが難しい面も多いので、その手立てについて記述しておく必要がある。</p> <p>(1) 密集市街地</p> <p>○密集市街地の状況も地域により違いがあり、取り組みをすべて指針に書くことはできな</p>

い。どのように建て替えを誘導していくかを検討することが重要。

○長田活性化策は新長田に偏り過ぎ、他が寂れているのでは。また、再開発で道路の幅を広げ過ぎ、かえって不便になっている。地域に合わせた開発を行うべき。

○公営住宅の建て替え跡地には、お年寄りが散策できる公園や、若者の集まる野外公会堂など、人が集まる仕掛けが必要。

△超高齢化が進む中で塩屋は交通の便が悪く、せめてJR塩屋駅までのバス及び区役所まで乗り替えなしで行けるバスができないものか。

△高齢化に歩調を合わせるように古い戸建・文化住宅の空家が増加している。防災・治安上マイナスで、地域の衰退と住民の孤立を進める原因にもなる。住環境の再構築（再利用）が重要。

(2) 成熟したニュータウン

○商業機能として、空き店舗に対して、中長期的な観点からの記述が必要。ソフト面も含めてまとめてほしい。どういう人材がどのように使っていくのか。

○自主運行バスなど取り組みへの支援は田園地域に限らず、ニュータウンなどでも必要になるのでは。

○ニュータウンのめざす将来の姿は普遍的なまちの姿でもある。年を召された方を弱い人と捉えず、どうまちづくりに力を貸していただくか、という視点が必要。

○退職した団塊の世代の人たちが地域を変えてくれると思うし、ノウハウももっておられる。そのための施設をつくるなどターゲットを具体的に絞った方がよい。

○ニュータウンに介護施設がなく、これまで培ってきたコミュニティから切り離された場所に行かざるを得なかった。そういう局面を打開するプランにしていきたい。

○ひよどり台で60代、70代の方を中心にまちづくりに活発に取り組まれている。自律という意味でも、行政サービスをどうするかだけに記述が偏っては問題がある。

○フィンランドのタピオラは地区センターに墓地を入れるという大きな土地利用転換を行っている。このような転換も重要な視点であろう。

△高齢化が急速に進み、傾斜地に住む住民が快適に生活するためにはバス路線の充実が急務。特に、御影山手方面のバス路線の充実。

△ニュータウンと言われた町が古くなり、少子・高齢化の進む町をもっと考えるべきである。駐車場やマンションの高層化、交通（バス）網の充実をしてほしい。

△大型商業施設よりも団地の街角に商店（ラーメン屋、クリーニング店、雑貨店等）があってもよいのではないか。規制緩和も必要である。

△西神南地区では医療施設や買物する場所など人口に追いついていない。特に中学校はもう一つあってもおかしくない。将来老人の憩いの場とするなどビジョンを持って作るなどしてほしい。

(3) 田園地域

○まず都市近郊農業としての充実策があるべきで、農業の活性化に対応して良好な景観が生まれてくるのではないか。

○今後、農業がより多様化することが想定され、田園環境についても市街地と同じようなコントロールが求められている。

○農業のあり方について、現在の図の地域の範囲に限定しないということも頭においておくべきである。

○例えば、神戸の農業は、一歩踏み出して、会社方式を進めることも考えていくのかどうか。その進め方をするとすると、都市空間上の対応も必要になってくる。

○田園地域の記述が地域による〇〇への支援となると市が一步引いたような記載になるがよいのか。

○農業のあり方は活力・魅力部会にも深く関係するが、土地利用の問題として考えていくところでもある。

○地域が主体的に取り組むということでは、里づくり協議会などで自ら土地利用を考える

	<p>ような取り組みにもふれておくべきではないか。 △大沢地域の山の住宅地商業地開発をお願いしたい。JR三田駅又は道場駅までモノレールのようなものを走らしてほしい。</p>
<p>リーディング エリア （審議資料：活 力・知力・魅力 にあふれるリ ーディングエ リアの創出）</p>	<p>（全般） ○兵庫運河やポートアイランドは、物づくりや医療産業が集積したところで賑わいを期待しにくい。関西のリーディングエリアと言うのは理想過ぎるように感じる。 ○リーディングエリアが3箇所だが、海沿いというともっと広く、舞子、須磨海岸もあるのに、なぜ兵庫運河で切られているのかと思う。 ○リーディングエリアについて、地域をネットワークするという考え方も必要。かつて設定していた酒蔵や六甲有馬などの観光群という位置づけは、どう扱うのか。 ○現在は場所が先にあるが、今後の整理では、テーマを追う中で空間とつながり、場所が現れてくるという整理もあり得る。</p> <p>(1) 都心・ウォーターフロント ○みなとまちのグランドデザインが必要と感じている。シドニーやアメリカの東海岸の都市などのように、神戸も海と山を売りにした戦略を考えていくべき。 ○港と街や市民が遠い。市民が船を日常に使う風景があってこそ、港と市民が近く、港町に住んでいる実感がわくのではないか。 ○昔とは船の数がぜんぜん違う。以前は港に活気があり、ワクワクする感じがした。今は活気がなくなったが、神戸港をどのようにアピールするかを考えるべき。 ○都心とWFが一体化しても、世界レベルのものが少ないのでアピールできない。明石海峡大橋は世界一長いつり橋として、海外にもアピールできる。 ○ウォーターフロントについてこれまでに他の委員会などでなされてきた議論や検討がどのようにつながっているのか。 ○WFについて何を重点におくのか。須磨、舞子、明石海峡大橋を含めて考えていただきたい。 ○「神戸に住む」と友人に言うと「芦屋か」と言われたが、「須磨」と言うとそのイメージも良かった。西の方も含めて、全体的な感覚をもつことも大切である。 ○東灘区のワークショップで水上バスを通すという案が非常に人気を得た。都心WFの検討にも隣接する都市との関係をもっと意識してもよいのではないか。 ○水上バスについては、結局採算性で撤退するという状態が続いている。あったらいいなどのイメージは湧くが、実際に利用するところまでいくかが問題。 ○道路・交通体系については周辺地域を含んでいるが、他の議論はポイントごとになっている。運河だけでなくすべての水面をどう活用するかという視点が重要。 ○新神戸～神戸空港の南北軸、ハーバーランドからHAT神戸に至るウォーターフロントの回遊プロムナードについては、整備も含めていれておく必要がある。 ○東西の交通は充実しているが、六甲山を越えた部分を含め南北の交通ネットワークが薄い。クリチバ市のバスを使った交通システムなどを考えられないか。 ○例えば元町から三宮までについては、車の乗り入れを規制し、歩行者天国のようにしてもよいのでは。 ○あるべき姿に、阪神高速、国道2号のバイパスの撤去といった表現を入れるべきでは。景観の点からもマスタープランで方向性だけでも記述すべき。 ○旧居留地の東西両方の視点の先にマンションが立ち、空が奪われ、景観がひとつ奪われ残念に思う。 ○個別のプロジェクトがとまっている時期にきちんと全体のプランをまとめ、個々の建築をきちんと誘導していくべき。 ○須磨のヨットハーバーは大きなヨットが止められない。空港島付近にはヨットが寄れない。神戸のよさは水面にもあり、トータルでデザインする必要がある。 ○都心・WFに箱物ができるなら、夜間景観を大切にしたい取り組みを期待したい。例えば香港のシンフォニーオブライトを意識してもらいたい。</p>

	<p>○元町も都心にあるが、駅周辺の整備が不十分である。南京町というシンボルをいかし、三宮や港と一体となって、グレードアップする取り組みを。</p> <p>○ウォーターフロントを活用すれば、サンフランシスコやボストンのような魅力が創り出せるかもしれない。</p> <p>△北野エリアに至る三ノ宮の雰囲気（風俗店）が気になる。玄関口としてもう少しどうにかならないか。箱物の新設に走るのではなく、現状の改善をすすめるのが得策だ。</p> <p>△神戸の顔としてJR三宮駅・阪急三宮駅前広場を広くしてほしい。駅も大きく、きれいにしてほしい。箱物には決して反対ではなく、できるだけ立派なものを作ってほしい。</p> <p>△六甲山に縦走路があるように海辺も東灘（HAT）から明石まで散歩のできる遊歩道でつなぐとか、豊かな自然（山と海）で人々が集えるような神戸らしさを強調する街づくりはいかがか。</p> <p>△神戸の港は企業に独占されて一般市民は利用できない。土・日曜日などは開放して市民に親しまれる港であって欲しい。港湾に興味がいったり、関心も集まると思う。</p> <p>(2) ポートアイランド</p> <p>○計画的につくってきたまちの実態を検証し、次に活かすことが重要では。2期の取り組みも1期の反省を踏まえた計画とすべき。</p> <p>○ポートアイランドの生活関連施設の不足が課題。空間部会としてどう取り上げるか。</p> <p>○ポートアイランドの部分の記述は2期を意識した記述となっているが、1期の部分の問題も大きい。ファッションタウンも衰退の兆しが見られる。</p> <p>○ポートアイランドの利用は極めて重要である。スパコン、医療、ロボット、創薬など産学、市、県の連携をうまく作って起爆剤とするなど強調してほしい。</p> <p>△神戸＝知の活用場となるように大学・企業の研修場・研究所をさらに誘致できるように街の整備をするとよい。例えば大学・企業の集まる特区を広げることでもいいのでは。</p> <p>△ポートアイランド2期を観光の拠点にする。王子動物園、須磨水族園と合併、魅力のある施設を作ってはどうか。観光・レジャー施設を集約し、ホテルの誘致を図る。</p> <p>△ポートアイランド・神戸空港の活性化を図るために、ポーアイの敷地を大いに活用し「カジノ」等の施設を作っていただき財政の危機を脱してほしい。絶対に市民のためになる。</p> <p>△神戸空港の空地に墓地を造って欲しい。区画もデザインも統一してアメリカにある墓地、公園墓地のようなものが良い。</p> <p>(3) 兵庫運河</p> <p>○兵庫運河やポートアイランドは、物づくりや医療産業が集積したところで賑わいを期待しにくい。関西のリーディングエリアと言うのは理想過ぎるように感じる。</p> <p>○川崎重工の車両工場ではゼロ系新幹線もみることができ。ゼロ系新幹線は全国区。魅力あふれる空間は全国区で勝負していく必要がある。</p> <p>○先人の偉業に市民が誇りをもち、まちを自慢したくなる。神戸にも土木遺産も数多くあり、観光資源になっていくと思う。</p> <p>○兵庫運河については低炭素商品のものづくりの拠点となる期待も持てる。即物的な「兵庫運河」という表現ではその包括的なイメージが伝わらないのでは。</p> <p>○兵庫運河は、大変価値のあるところだと思う。しかし兵庫運河と書くと運河だけになるので、運河周辺も含んだエリアとしていただきたい。</p> <p>○三菱、川崎などの企業にどう参画してもらうか。もっと企業にもまちづくりに参画してもらっていく必要があるのでは。すばらしい産業の財産である。</p>
--	---

(4) 協働と参画のしくみ（行財政）

<p>市民とともに 取り組む行政 （審議資料：市</p>	<p>(1) 民・学・産と行政など多様な担い手で支えあう市民サービスへの転換</p> <p>○「自発的に市民が組織を作り、サービスを提供する」コモンズ概念は、行政を前提とした協働と参画とは異なる。地域の潜在力、市民の力を集結させる仕組みができないか。</p> <p>○行政が呼び水をやる必要はあるかもしれないが、行政が介入することで、その結果市民</p>
--------------------------------------	--

<p>民とともに取り組む行政)</p>	<p>の自発的な活動をクラウドアウトしている（押し出している）可能性もある。</p> <p>○地域の安定のためには、サービスの供給と受け手が見えることが必要で、それをつなぐのが地域通貨ではないか。一定のサービスが供給されれば制度は安定する。</p> <p>○ソーシャルキャピタルの供給がこれから課題になる。</p> <p>△長野県は平均寿命が短い県だったが、10数年前、あるリーダーの提唱で生活改善に取り組み、今や長寿県となった。行政と市民が一体となって取り組むことはないか。</p> <p>△具体論になると総論賛成、各論反対となり、抵抗勢力が頭をもたげるが、それらをはねかえす政治のリーダーシップと支える市民力の育成のための啓蒙が必要。</p> <p>△地域主体でのまちづくりには限界がある。もっと行政が本気でやるべき（建前だけではだめ）。</p> <p>△少子・高齢化の現在、私達高齢者の負担を子供や孫に負わせるわけにはいかない。高齢者も応分の負担はすべし。後期高齢者保険も止むなし。老人バスパス負担も結構。</p> <p>△受益者負担という考え方はある程度は必要だが、行政サービスを必要とする人の多くは負担を重荷に感じると考えられる。税収の配分をうまく活用し、市民の納得のいく負担増を。</p> <p>△何かを行政に求めることも必要だが、また市民に「何ができるのか」だと思ふ。行政は法や決定権を振りかざすのではなく、市民の補助ができる立場であることが望ましい。</p> <p>△市営交通機関無料パスを復活し、外出機会を増加させ、健康悪化を防ぎ、医療費の増加を防ぐことができる。何より、長年の納税義務を果たし財政に貢献した人に礼儀があつてしかるべきである。</p> <p>△モラルに欠ける年寄りが目立つ。生活も大変な時代かも知れないが、老いたら誰かが助けてくれるという甘えは決して許されない。思い切って敬老パスなどを廃止してみてもは。</p> <p>△みんながもっと「税金を納めよう」という意識を盛り上げることが大切。いかにして税金をのがれようとの意識が高すぎる。</p> <p>△働いても最低賃金が生活保護を下回る。働く人の収入が仕事に就けない人より少ない。これでは勤労意欲をそぐ事になる。個人の責任で自分の生活は守るべき。生活保護をきびしくするべきである。</p> <p>△自治会・婦人会・青年会・子ども会をボランティアで支えているが、せめて交通費や少額の手当を出して、地域の助け合いやまちづくりをサポートしてほしい。</p> <p>△介護保険でまかないきれない時代が来る。地域でお互いが持っている少しの時間を融通しあい助け合っていかなばならない。神戸市共通の地域通貨を作り、気がねなく使用できるしくみを。</p> <p>(2)市民ニーズの把握と行政の透明化の推進</p> <p>○予算策定の透明化も課題の一つである。「行財政」という観点では、情報をいかに市民に伝えるかが重要なテーマ。</p> <p>○市民理解を得るためには、信頼を得ることがポイントになる。その方策がPDCAサイクルや事業仕分けであり、さらに市民ワークショップや研究会を開くことも一つである。</p> <p>○何に市民は満足しているのか、あるいは何をやれば満足するのかを正確に把握する必要がある。神戸市独自で、市民が満足をどう得ているのかを把握する必要がある。</p> <p>△問題点となる現状の予算の配分状況を明らかにし、どこを削り、どこに重点を置くのかの現状分析から始め、意見を求めるのはその情報を与えて聞かれるべき。</p> <p>△今回の広報のような取り組みはいいアイデアだと思う。役所が市民の目線で考えることに役立つ。年に1・2回行ってはどうか。</p> <p>△協働と参画で地域力の強化を進めているが、行政のおしきせはいやだ。地域が何を望んでいるか何がしたいかをよく話をきいたうえで事業展開をしてほしい。</p> <p>△普段からいろいろな活動団体と機会を捉えて市職員が意見交換する必要がある。単に陳情を受けるのではなく討論して方向性を見つけ、行政が真剣に重要度を見極め順次実行していくことが肝要。</p>
---------------------	---

	<p>(3) 民・学・産と行政の協働と参画による総合計画・部門別計画の策定 ○政策決定に市民をどう参画させるか。神戸大や県立大の知的財産をどうやって使うか。市民、研究者を政策立案にどう関与させるか、考えるべきである。 △過去の市政がどのようなであったか、その反省の上にたって考えねばならないと思う。何か、美辞麗句のみが1人歩きしている感が否めない。 △指針策定には市民参加の場（協議会）の設置が有効かつ必要。</p> <p>(4) 市民にわかりやすい行政のPDCAサイクルの確立 ○市の施策について満足度調査を行い、市民の満足度に応じた予算配分を行うという手法が行政において主流になると思われる。 ○PDCAサイクルをやるなら、人事評価との連動性を図ることも検討を要する。 ○事務事業評価については現在政府で事業仕分けをやっているが、あれも一つの方法。 △誇りをもった市民をつくるためにも、まず、市民一人当りの行政コストの収支情報を各部門別に“家計簿”のようにわかりやすく明示すれば、ロードマップが自ずと画けるだろう。 △行政サービスの中には、内容をあまり検討されることもなく、慣習として続けられてきたものもあるのではないか。それらをチェックし、本当に必要なものかどうか、検証することも必要。</p>
<p>効果的で効率的な経営 （審議資料：効果的で効率的な行政）</p>	<p>(1) 柔軟で機動的な行政システムの構築 ○市営住宅の管理が指定管理者によって行われるが、コミュニティの醸成という観点から懸念される面がある。 ◇「行政の仕組み」として、区にいつでも通訳者がいることが外国人のメリットとなる。 △活力ある神戸をつくるためには、神戸の特徴を生かす行政経営が重要。 △どの政策にもしっかりとした財源がなければ、実現は不可能だと思えてならない。市民の目に見える政策の実行をしていただきたい。 △市営住宅の建替の時、土地を有効利用し、老人ホームも一緒に建てる等、うまく利用しては。市街地なので家族も老人も孤独感がない。 △民間に委託できることは民間にまかせ、赤字体質の第3セクター等思いきった対策をとるべき。 △新たに何かをつくるのではなく、今ある物をしっかりつかってほしい。意味のない道路工事はいらぬ。神戸空港も作ったら終りではなく、どうにかしてほしい。 △かけ込み予算消化等を廃止し、国に枠にとられない財源使用を、声を大にして意見していただきたい。 △神戸市では予算の使い切りの見直しが行われているのか。創意工夫により少しでも節約（サービス等を縮小するのではなく）して残った分は翌年度に繰り越すことを全国へ配信していただきたい。 △役所に「なんでも110番」を作って、そこから担当者に連絡するようなシステムがあれば良い。</p> <p>(2) 市民ニーズや新たな都市課題に対応した行政組織の構築 △過剰な人材を適切に配置し、効率的な行政を行ってほしい。 △職員数の削減は進んでいるが、議員数を削減して更なる努力を。 △市長、職員の給料を民間並に減給すること。 △効率的な行政経営には、優秀な職員や管理職に対して相応の給与をもって評価し、モチベーションを高める必要がある。「削減」ばかり考えないでほしい。</p> <p>(3) 総合的人材マネジメントの推進 ○業績に応じた評価を入れる、というと、評価の上がることしかやらなくなるという弊害がある。トライしたことが評価されないと、誰も取り組まなくなる。 □神戸市職員が育っていないという現実があるならば、場が悪いということであろう。イ</p>

	<p>ベントを任せるなどもファシリテーターとしての訓練になる。</p> <p>△官民一体の取り組みは、特に創造力が大事で、情報・知識・新しい発想をもって知恵の集積が求められる。行政側が主導力を持ち国政の力、他府県との情報共有が不可欠。</p> <p>△公務員の能力アップ、士気をもっと高めてほしい。定時が来るまで机にすわって本を読んだり、周りの人と談笑したり。△ダになっている力を正し、生かしてほしい。</p> <p>△行政の人が市民に理解できるように説明する能力を身につけてほしい。</p> <p>(4)民間・大学等との連携</p> <p>△民間人の登用等市組織の活性化、民間経営システムの導入。</p> <p>△行政の運営に高齢者を積極的に採用し、コストを減らすと同時に受け皿拡充の一石二鳥というのはいかがでしょうか。</p>
<p>地域のまちづくりの支援</p>	<p>(1)市民・事業者等を基点とした組織・業務プロセスの構築</p> <p>○市民主権や地域分権についての記述が弱く感じる。</p> <p>○事業をソーシャルなものとして地域を活性化するプロジェクトを提案させ、その資金や場所の提供をすれば、直接行政が人を入れるより効果も継続するのではないか。</p> <p>△阪神大震災を機にボランティアが日本に根づく元年になったと言われている。これをよい意味の記念にしてボランティア日本一をめざす都市にしたい。「支え合う神戸」を合い言葉に。</p> <p>△行政に反映する地域活動として自治会活動が重要となってくる。しかし自治会には機能しているもの、地域活動を阻害しているものがある。行政として管理、指導する事も大切。</p> <p>(2)地域の特性や実情に応じた地域支援制度づくり</p> <p>○区長は最長でも3年ぐらいしかいない。これでは、たとえ能力があったとしても、長期的にじっくりとまちづくりに取り組むのは難しいのではないか。</p> <p>○区によって質が違うことから、独立的に市民サービスを提供するのが市民満足度を高める一つの手法ではないか。区長公選制もひとつの流れのような気がする。</p> <p>△各地域が魅力を発揮すれば自然と世界から注目される。また、地域主体でなければ本物の安全・安心なまちづくりはできない。</p> <p>△例えば名古屋市のように「地域委員会」と連動して「予算地域優先配分」のような具体的な姿、目標を記述しては。</p> <p>(3)神戸版「地域担当制」の制度構築など区のまちづくり支援体制の充実</p> <p>△行政から自治会等を通じて、もっと地域の人にしてほしい事（例、街路の雑草抜き、水やり等）など申し入れてはどうか、そのかわり行政も地域の申し出に耳を傾け、よりよい社会を築いてほしい。</p> <p>(4)地域を支える行政組織である区役所の機能について、本庁との役割分担も含め弾力的に見直し</p> <p>△市民との窓口・区役所が今でもタテ割り行政では、…もう今の私にはアキラメの方が多くなっている。</p> <p>△市と区の役割分担と人材の配置を含めた構想が要るのでは。時間軸も重要。</p> <p>(5)市民の利便性、地域特性や歴史、行政の効率性など総合的観点から行政区のあり方を検討</p> <p>△20～30年先の将来像を考えた行政改革（中央・兵庫・須磨区の統廃合と北区役所を北神へ移転）</p>
<p>広域行政 （審議資料：広域行政の推進）</p>	<p>○広域行政は、地域単独ではできないので、広い地域が連携して市民サービスを提供していくという側面もある。</p> <p>○メガリージョンにより京阪神の交通網を整備して利便性を高めることにより、他地域へ</p>

	<p>のストロー効果を防ぐことができる。</p> <p>○広域行政の推進と同時に、住民に近いところでサービス提供が行われていくとの動きも必然として出てくる。それを計画でどう書くか。</p> <p>○道州制は神戸にとってはマイナスの話ではないか。神戸が小樽に、大阪が札幌になってしまう。神戸は道州制にならなくても京阪神地域に貢献すると打ち出す必要がある。</p> <p>□個々の施策と広域行政、大都市制度がどのように関連するのか市民に見せる工夫が必要。</p> <p>□計画期間である2025年までには、道州制の話が出てくる可能性が高いと思われるので、神戸市でも何らかの形で位置づけは必要。</p> <p>□道州制における州都ではない神戸市はどういう立ち位置を取るのか、戦略的に考えておいたほうがよい。</p> <p>□道州制の設計をしていく際に、「州都」の重みを持たせないような形にするのがよい。</p> <p>□大阪、京都、神戸それぞれの強みを発揮すればよい。</p> <p>□近隣の市町村との関係についても見る必要がある。</p> <p>△早急に道州制へ移行させ、各県・各市が共有・共存し得るテーマを基軸に共存共栄の旗印を立て、実現に向けてフルにマンパワーを活用する。広域行政力の実現が肝要。</p> <p>△心配されることは、「道州制」という美名のもとに、神戸の持つ、また育てていこうとしている数々の貴重なものが大阪に吸収されてしまうのではないかということ。</p>
<p>大都市制度 (審議資料：大都市制度の確立)</p>	<p>○神戸市もこのままいけば、財政的にパンクする恐れがある。パンクしないようにするためには、国から財源を引っ張ってくる必要がある。</p> <p>○大阪・神戸・京都などは道州制になっても別に考えるべきで、ある程度、課税権も与えるべきではないか。</p> <p>○広域行政や大都市制度の推進により、地域内での貧富の差、格差がますます出てくるのではないか。地域内の格差の問題についても、考えておく必要がある。</p> <p>□今の政令市の枠組みのままで大都市制度を確立していくのか、全く新しいものとして進めていくのか、戦略を考えておく必要がある。</p> <p>□日本は世界でも例を見ないほど、地方行政が国と緊密に絡んでいる仕組みとなっているが、国との関係について、こちらから案が出せるように準備しておくことが必要。</p> <p>□大都市制度の議論と平行して、神戸市内で区の権限をどうするのかについても検討が必要。</p> <p>△地方分権は災害に強いまちづくりには欠かせない問題。河川などは国や県が管理している関係で市ではどうにもならないのを、市が直接管理(財源共)に変えるよう働きかけては。</p>
<p>人財の育成 (審議資料：多様な人財が集い、交流・融合するまちの実現)</p>	<p>(1) 人財が集まるまち</p> <p>○外国人からの多様な人材の集積、外国籍の人々の動きも踏まえての展望を実施すべき。</p> <p>○担い手の育成、人材の育成であるが、やる気のある人を探すこと、その人を支える仕組みづくりが大切。大事なのは気持ちを持ち続けることである。</p> <p>○魅力づくりのキーワードは「風光」であろう。神戸の住環境のよさは世界でもあまり例をみない。京阪神における高級住宅地を神戸が担うということだろう。</p> <p>○富裕層、特にアジアの富裕層と、日本のリタイアした人をうまく呼ぶことが必要。その際空港があることがメリットになる。</p> <p>○富裕層をターゲットにすることで、税収にもつながり経済におけるデマンドができてくる。デマンドが雇用の創出や地域のインフラの高質化につながる。</p> <p>○神戸の既存産業を元気にしてくれるような人材を外から連れてこないといけない。</p> <p>○お年寄りに来てもらって、今まで培ったものを神戸に活かしていただくということが重要。</p> <p>○北野の外国人クラブをもっとサポートしてはどうか。</p> <p>○神戸はもともと欧米航路の終点と言われており、ヨーロッパとつながりが深いので、ヨーロッパの企業をもっと呼んでこないといけない。</p> <p>○年をとって神戸に戻って来ている人や、神戸で雇用されてハッピーだと思う人について調査を行い、生の声を聞くことが重要である。</p>

- 人材を集める政策の本流としては雇用があることが望ましい。
- リチャード・フロリダの（人生の）3つの選択として、職業、パートナー、そしてどこに住むかと言っている。神戸は住むという観点でアドバンテージがある。
- 神戸には外国人クラブも学校もある。家族のことを考えると神戸が住みやすいと言われており、ここは伸ばすべき長所。
- ふるさと神戸に戻ってくる運動をやればよい。東京に流出した人材に神戸にお金を持って帰ってきてもらう。ふるさと納税ではなく「ふるさと帰り」が必要。
- △神戸に本社機能を置いていた企業の東京への移転が見られる。優秀な人材が神戸を離れたり、経済活動の低下につながる。人材流失を防ぎ、同時に育成し、神戸の発展に寄与できる環境整備が急務。
- △将来の神戸を担う人材を集め育てることに、力を入れて取り組んでほしい。

(2) 人財が交流・融合するまち

- 魅力があると感じる都市には、人材が集積しやすく、産業が根付きやすいという議論がある。
- 神戸に企業のヘッドクォーター部門を誘致してくるべきである。コーポレートを目指す質と量が関西圏には著しく少ない。
- 企業として人材を集める際に、神戸市の力（都市魅力向上などの施策）が重要。神戸の人材戦略・都市戦略は神戸に根ざす企業にとっても死活問題である。
- 神戸は良い大学がたくさんあるが、卒業後に働く場所が限られている。外資系も含めて企業をもっと誘致しないといけない。
- 神戸では、地域がよそ者を受け入れてくれやすい。これは人が集まる上で長所である。排他的でないという部分は神戸の強みではないか。
- 神戸の弱みとして、財政的脆弱性が市民サービスの低下や都市魅力の減退を招くのではないかと危惧される。
- 高齢化社会で、不況でも比較的安定したビジネスとして、医療系企業の誘致は有効である。製造部門を置くより、研究開発とか付加価値の高いものを置く方がよい。
- 分野で突出した人材が神戸に住んでいる、付加価値の高い人材が分野ごとについて、それらの人がつながりを増やすということは神戸らしいと思う。
- 人材育成に関して言えば、研修所があるとありがたい。
- 地域のネットワークだけでなく、グローバルなネットワークとして、神戸に住んでいる同じような人が集まれる場所があるといいと思う。
- 今後は人口が減っていくため、今ある人材をどう活かしていくかが大事になってくる。お互いの関わり合いを増やす仕掛けとしてファシリテーションが重要。
- 地域のまちづくりの場で、いきなり団塊の世代の方をファシリテーションとして育成するのは難しい。若い頃から訓練しておく必要がある。
- 高学歴でありながら専業主婦となっている人はたくさんいる。眠っている人材が女性に多いと思う。
- 地域のまちづくりでは、最初は行政の職員が地域に入ってファシリテーターになっても、後々は地域の人々がやってくれるようにしていかなければならない。
- 地域で核となる人材を育てるには、動機付けとインセンティブの課題がある。行政はワークショップなどに金を出さないが、金が出れば若い人でもやる人は出る。
- 地域での人材発掘もイベントがきっかけとなる場合がある。
- 東京は情報面では優位性があるが、住みやすさの点では神戸が優位であろう。この利点を活かして人財に神戸に帰ってきてもらうのがよい。
- 神戸・住吉村にかつて設立された観音林倶楽部はイギリスの社交クラブや交詢社がモデルであったと考えられる。当時の富裕層が集い、交流できる場として設立されたが、地元住民も利用できたようである。
- 観音林倶楽部のように、様々な分野で活躍する人間が議論・交流できる場を設けることを意識すべきである。英国では大学のサロンやコモンルームなどで議論し、その後デ

	<p>ィナーでも別の人と議論するというような文化や場がある。このような交流により新たに生み出されるものがある。</p> <p>□神戸の独自性を打ち出して人を集めることが重要であり、例えば腕の良い職人、いわゆるマイスターも神戸に様々な分野で存在する。こうしたマイスターも大切にしていけるべきである。</p> <p>△国際都市・神戸として、日本そして世界の都市の手本となるようなまちづくりを期待する。外国人と共存、繁栄できるようにすれば、多くの課題が解決できると考える。</p>
--	---

(5) 今後の取り組みにかかる新たな視点

<p>都市戦略等にかかる意見</p>	<p>○成長産業を呼ぶとしても、神戸に来る必然性がない。目指すのは昔ながらの重厚長大産業ではなく、小さな企業の集積ではないか。(スイーツやレストランなどのサービス業などが一例)</p> <p>○六甲、岡本にある高質なレストランなどは地域インフラになる。生活インフラの高質化が作るデマンドを求めて若者が集まる。スローガンやキーワードで産業を呼ぶ時代ではない。</p> <p>○高級住宅地で誰も住まなくなった家は市が買い上げて、神戸に来たいという外国人に貸してはどうか。神戸の広い住宅は、外国人を集める際の売りになる。</p> <p>○神戸の山手の高級住宅を潰さないよう維持することが必要。</p> <p>○マイクロファイナンスまで行かずとも、神戸らしい中間的なものが出来ればよい。</p> <p>○昔の神戸モデルをさらに大きく展開できればよい。巧成り名を成した人材が、リタイア後も神戸のために活躍できる場をつくる必要がある。</p> <p>○要は人口を増やすことが基本である。若い人にこだわらず、とにかく人口を増やすことで金が回り、職場も増える。そうすれば若者の働く場も増える。</p> <p>○「リタイアした人に期待しているまち」、「お年寄りが活躍できるまち」として神戸を国内外に発信していく戦略がよい。</p> <p>○大阪でイメージを大切にする企業、食品会社などを神戸に誘致すればよい。</p> <p>□神戸は、上品・おしゃれ・教育の3つを最大の売りにすべきと思う。</p> <p>□神戸の東部と西部で別の政策となるのではないか。真ん中(兵庫・長田など)をどうするか、神戸の現状に応じてそれぞれの政策をきちんと考える必要がある。</p> <p>□吹田市の総合計画を策定した時に感じたことだが、計画をみんなで作ったということきちんと市民に伝えるが大事だと思う。</p> <p>◇デザイン都市は、ユネスコのネットワークに加入してどのような成果があったのか知りたい。</p> <p>◇大胆な減税を行って、市税が一番安く行政サービスも一番低い「政令市で一番安い行政」を目指すなどの打ち出しを行ってはどうか。</p> <p>△神戸にしかない強みを生かさねば生き残れない。絶えず外国力を取り入れることが必要。普通の日本的な街なら日本中に捨てるほどあり、歴史ある町に勝てない。</p> <p>△「神戸市」のための取組みばかり。「神戸市民」のための取組みをして欲しい。発想の転換が必要。そうでないと地方分権は成り立たない。市民が感動するような企画を。</p>
--------------------	---

* 上記の意見等については、神戸市総合基本計画審議会委員のほか、次の団体等からいただいたご意見等をまとめています。

①関係団体

- ・神戸市自治会連絡協議会
- ・野田北ふるさとネット
- ・ひょうごDV 被害者支援連絡会
- ・神戸芸術文化会議
- ・外国人市民会議
- ・部落解放同盟神戸市連絡協議会
- ・兵庫県地域人権運動連合神戸人権交流協議会
- ・神戸市介護老人保健施設協会
- ・神戸市シルバーサービス事業者連絡会
- ・神戸市ケアマネジャー連絡会
- ・神戸市身体障害者福祉団体連合会
- ・神戸市重度心身障害児（者）父母の会
- ・兵庫障害者連絡協議会
- ・障害者問題を考える兵庫県連絡会議
- ・神戸市手をつなぐ育成会
- ・兵庫県高機能広汎性発達障害児・者親の会「ピュアコスモ」
- ・神戸市歯科医師会
- ・神戸市薬剤師会
- ・兵庫県社会福祉士会

②インタビューを行った有識者等（50音順）

- | | |
|----------|----------------------------|
| 安西 敏三 氏 | 甲南大学法学部教授 |
| 長内 厚 氏 | 神戸大学経済経営研究所准教授 |
| 曾我 謙悟 氏 | 神戸大学大学院法学研究科准教授 |
| 堀 公俊 氏 | 日本ファシリテーション協会 |
| 前川 洋一郎 氏 | 関西外国語大学国際言語学部教授 |
| 山下 茂樹 氏 | 日本イーライリリー株式会社人事部研究開発本部担当部長 |
| 勇上 和史 氏 | 神戸大学大学院経済学研究科准教授 |